

かねざわ

第70号

2019年（令和元年）8月

(P—3) 第1回学習会～第3回学習会

(P—19) 会員の寄稿 「馬方の立つ切通の風景」



運営委員会からのお知らせ

2 探訪「三浦同寸ゆかりの地めぐり」

探訪実行委員会

学習会

3 第1回学習会

「葛飾北斎の波の絵から

長浜千軒伝説を解く

9 第2回学習会

「長尾景春の乱から長享の乱」

14 第3回学習会

永正の乱一両上杉と伊勢宗瑞一

会員の寄稿

19 「馬方の立つ切通の風景」

“わ”の会会員 渡邊 紀一

分科会からの便り

23 「寺社を巡る会」活動記録（5月～7月）

26 「ふれあいの道歩こう会」実施概要No.26

代表 江口 正彦

29 「懐かしの映画を観る会」No.31

代表 佐藤 晃

35 「浮雲俳句会」抄録No.46

代表 北野 清市

39 「パソコンを使いこなす会」

パソコン何でも相談室【19】

代表 林 洋

歴史研究

42 「江戸時代の五街道を歩く」（7）

「古文書を読む会」 代表 真田 雅行

48 行事予定（9月～11月）



金沢区生涯学習“わ”の会

ホームページ：<http://kanazawa-wanokai.in.coocan.jp/>

メー ル：yokohama.kanazawa.wanokai@gmail.com

2019年度 探訪（第6回学習会）のお知らせ
『三浦道寸ゆかりの地めぐり』 実施日：10/11（金）

今や定番となった秋の探訪のご案内です。

今年は第5回学習会で学んだ三浦地区を探訪します。

下記要領で実施しますので、多数のご参加をお待ちします。

『実施要領』

1. 探訪地 : 三浦地区（NPO 法人よこすかシティガイド協会の案内）
2. 日時 : 10月11日（金）9時30分～15時30分 小雨決行
注1：班編成 12～15名程度ごとに班編成します。
注2：荒天等で中止する場合は当日朝6時45分までに、担当者が電話連絡するとともに“わ”の会ホームページに掲載します。
3. 集合時間 : 午前9時30分（厳守）受付開始9時00分
4. 集合場所 : 京急・三崎口駅
5. 持ち物 : 名札（着用）、飲料、雨具
6. 昼食場所 : 未定
7. 探訪経路 : 三崎口駅→外の引き橋→義土塚→荒井山真光院
→新井城址→小網代の森

※諸般の事情によりコースを変更する場合があります。

8. 申込期限 : 9月28日（金）

不明な点は下記にご連絡ください

鶴岡重典 Tel045-785-6151 メールアドレス asahina5rou@gmail.com

三浦啓一 Tel045-784-4144 メールアドレス keiichi_0612@sun.cims.jp

第 1 回学習会

『葛飾北斎の波の絵から長浜千軒伝説を解く』

編集委員 鶴岡 重典

開催日：2019 年 5 月 11 日（土）

11：00～12：30

会 場：能見台地区センター多目的ホール

講 師：“わ” の会会員 平山 次清 氏



【概 要】

【はじめに】

毎年、年度の第 1 回目の学習会は総会終了後に開催され、“わ” の会会員が講師となって行われてきた。本年も例年通り会員の平山次清氏が講師となり、「葛飾北斎の波の絵から長浜千軒伝説を解く」と題した講演が行われた。

年に 1 回とはいえ毎年自前の講師で学習会を実施できるということは当会の会員のレベルの高さを物語る証であり、今後とも可能な限り継続していきたいと思う。

【長浜千軒伝説とは？】

長浜千軒伝説とは今から約 700 年前の応長元年（1311 年）に起きた津波により長浜一帯が巻き込まれ一夜にして村が消えたと伝えられる事件。但し、犠牲者も地震の記録もなく、お堂にあった観音像が流され 37 年後に柴村の漁師が海中で発見したとされる。村が消失したため漁民は近隣の各地や遠く富津

方面に移住したと伝えられている。また、金沢地先の埋め立て時に海底から巨木の幹や根っこが発見されるなど、この話の真偽については諸々の議論はあるものの状況証拠もいくつかあり、全くあり得ないということではなさそうである。

【葛飾北斎の波の絵が意味することとは？】

長浜伝説を説明しえる仮説として葛飾北斎の「神奈川冲浪裏」がヒントになる。葛飾北斎（1760年～1849年）は江戸後期に活躍した画家で彼の代表作である「富嶽三十六景」の「神奈川冲浪裏」はその大胆な構図で有名である。この絵は、西洋の有名画家たちに多大な影響を与えたが、北斎もまた、ほぼ同時

【今後も起こり得る長浜千軒伝説】

波の種類を、地震津波、潮汐、高潮、風波に分類すると、高い風波が海岸に打ち寄せた場合、波の向きによっては海岸に沿って強い流れが生じ、これが長浜千軒伝説の原因になったのではないかと考えられないだろうか？低気圧あるいは台風により高波、高潮が発生、高波により長浜流れを生じ、家屋の土台を支える土砂が流され、民家自体も流された。しかし、それほど強い津波ではなかったことが

【おわりに】

本講演は、金沢区内の長浜という我々会員にとり馴染みの土地にある「長浜千軒伝説」を題材にしている。それを講師自身の専門である波の動きという物理学的アプローチと、葛飾北斎が描いた「神奈川冲浪裏」の絵という芸術的アプローチの両面から実像に迫る野心的試みでありアプローチの仕方が大変興味

代に活躍した天才的彫刻家、波の伊八（1751年～1824年）の影響を強く受けているものと思われる。波の伊八は現在の千葉県鴨川（所謂外房）の出身であり、こうした波は伊八が育った外洋でならばともかく、内海でもあり得るのか。記録を見る限り、地震による津波や地滑りでもなさそうである。

ら人的な被害はなく人々は近隣あるいは千葉方面に流れ着いた。なお、今後もこうした事件が起きる可能性について検証してみると、高潮や高波が発生する可能性はあるが、現在では埋め立て地は護岸整備されていることが多く、長浜流れによる漂砂は発生しにくい。さらに現在は建物も堅固になってきていることを考慮すればこうした事態は起こりにくいと思われる。但し、地球温暖化で海水面が上昇すればあり得る可能性は否定できない。

深い。さらに、今後の起こりうる可能性にまで言及したことは特筆すべきである。歴史研究にはこうした「仮説をたて実証的にそれを証明していく」という地道な努力が必要とされることを再確認した。講演終了後に、良質な推理小説を読んだような清々しい気分になったのは私だけであろうか。



2019 年度第 1 回学習会アンケート集計と実施報告

アンケート集計

『葛飾北斎の波の絵から長浜千軒伝説を解く』 講師：平山 次清氏

出席者		一般会員	委 員	計（出席率％）	ビジター	計	アンケート（提出率％）
	男	69	9	77(81.1)	0	77	
	女	9	1	11(55.0)	0	11	
計		78	10	88 (76.5)	0	88	51/78

1. 講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった
34 名	15 名	2 名	0 名

- ・最初は良かったが、進むにつれつまらなくなったと思われる、又最後は良かった
- ・仮説の説明
- ・自然科学者の観点から歴史を解釈することの新鮮さ、重要性を感じた
- ・北斎の絵から防災を考え、注意を怠らないよう再認識しました
- ・元学者らしく蓄積された知識を背景に波の崩れ前後の状況が面白かった
- ・「長浜千軒」については過去数度聴いたが『葛飾北斎の波』からの切り口が目新しい。理論的な説明に納得。「長浜千軒」の話はこれ以上の追究は無理ではないか
- ・「長浜千軒伝説」と「葛飾北斎の波」の関連を研究中の題材で結びつけて、興味深く講義して下さり勉強になった。「寺社を巡る会」バス探訪 11 月 22 日(金)で房総行元寺「伊八」が楽しみになった
- ・「長浜千軒」は初めて聞いたが、大変面白く興味深く拝聴した
- ・①限界波等理系の発想に基づく独自の解釈等大変面白く聴きました ②写真の紹介等も豊富で極めてわかりやすい説明であった
- ・非常に興味のある話で講師の仮説もよかった（地元として）
- ・意外な視点からのお話でした
- ・興味ある課題でどこから深めるかなど問題提起にも思えた
- ・広く深い資料の調査、分析を基にした詳細で正確な説明が素晴らしかった
- ・視点を変えて物理的説明が新鮮でした
- ・「波」から長浜千軒伝説を調べた点、「風波」の説明に納得、あり得る話だと思う
- ・長浜千軒伝説を北斎の波の絵から検証及び理系発想の理論考察が新鮮で面白かった。若干くどい
- ・面白かった
- ・長浜千軒伝説の科学的根拠から分析して示されて、非常に興味深く聞きました
- ・検証も科学的で大変分かり易かった

- ・長浜千軒伝説を学術的な面から説明していただき、おもしろく聴講した
- ・いろいろな事よりアプローチは面白い。仮説・検証の方法も参考になりました
- ・伝説を波に関連させた説で解説、分析されて、とても興味深く聞きました。※写真の中の野島公園の位置が気になった
- ・長浜伝説の話よりも北斎の絵画いた波を様々な角度から考察した件りは大変面白かった。さすが波の研究家らしい快説は印象に残った
- ・長浜千軒と北斎、伊八をつなげる発想におどろきました。今後の進展を期待します
- ・1. 伝説の掘り起こしプロセスを聴けて興味深かった 2. 伝説の自然科学的分析というアプローチもトロイ遺跡伝説同様評価に値すると思う
- ・地元の話でよかったです
- ・身近な所(長浜)の出来事と北斎の絵とからめて研究をされていることが、とても興味深く講演されたことが良かった
- ・葛飾北斎の波の絵がヒントで長浜千軒との関連が面白かった。真偽はともかく興味ある説明であった(伊八との関係性に)
- ・津波が長浜に有った事実が資料等で大変良く理解できた
- ・波の構造や津波のメカニズムが知れてよかった。また北斎の波がパクリとの話などもよかった
- ・流石内容濃い講義であった。よく調べてある。歴史上と科学上とをおり混ぜた内容で興味あった
平山講師有難うございました。お一人での歴史事項の調査は大変だと思う。Groupで手分けされては？
- ・波の専門家による解説は目あたらしく面白かった
- ・波の学者の解析による長浜千軒伝説、北斎の波は非常に面白かった
- ・北斎の絵と講師の研究の波(科学の立場)からアプローチされ面白かった。又伊八の彫刻の波もあまり耳にしていなかったなので、納得した。以前の NHK 北斎の劇と比べながら楽しく聞いた。伊八は写生したのかな
- ・地球温暖化との関連での長浜千軒伝説の話は興味深かった
- ・書籍で見た記憶では詳しくはなく北斎の絵と合わせての解釈が詳細に語られ、小気味良く非常に良かった
- ・“長浜千軒”の流失を葛飾北斎の波の絵をヒントに考察するという切り口が面白く、推理的な興味もある、大変面白い話であった
- ・長浜伝説はたしか洲崎神社にいわれの看板があった。伝説を理論的に実証する大変興味深い話でした
- ・話の内容がデータに基づいていて理論的な仮説に対して納得ができて非常に良かった。長浜千軒伝説と北斎の波浦の高さの関連性が新しい発想であり楽しめた
- ・根拠に乏しい話を更に不明な話で全く面白くない。仮説をくつがえす話になっていない。真実に近づいていない。意味のない講話であった。北斎自身の人間性に問題ないか確かな話は？もう少し下準備が必要なのは。言葉の説明して欲しい。根拠のない話を伝説にする講話でした。面白くない話が長過ぎる、もっとまとめて手短に
- ・北斎の絵は江戸湾では発生しない事がわかった
- ・タイトルが知らない話です。話し方に馴れていて、わかりやすく良かったです
- ・地域の言い伝えを今まで気付かない科学的観点から考察され、大変面白かった。「×××の乱」より

“わ”の会の趣旨に合致している。喋り口早いのが少し理解しにくい所があった

- ・「波の伊八」歩こう会でたすねたことあり
- ・こんなすばらしい会員がおられた、“わ”の会のほこりです

2. 平山講師に希望する講演テーマについて

- ・長浜千軒伝説の結論を聞きたい
- ・是非 長浜千軒 応長元(1311)年の続きを期待しています
- ・名画とその画面構成について（あくまで個人的な興味ではありますが、
- ・専門の研究等更に聞かせてもらいたい
- ・造船船舶が専門のようですので、地元との関係で何かお話を聞かせて頂ければと思います
- ・波の話、船の話等専門の話
- ・造船技術における耐波対策集等々
- ・これからも地元に関する事件をお願いします
- ・今後講演出来る事が有れば地球温暖化の話が聞きたい

3. 学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. 良くなかった
20 名	22 名	1 名	1 名

※チェック無し：7名

- ・仲間(会員)を増やす努力を期待
- ・ていねいな運営との印象を受けました
- ・若干の遅延はあったがスムーズでした。議事内容も簡潔で良かったです
- ・進行の手際が良い。分かり易い
- ・地元に関係したオリジナルな研究という位置、話は興味深い
- ・講師の方のお話が長びき、きっといらいらされたのではないのでしょうか。お疲れ様でした
- ・この様な講演も時々お願いします
- ・運営は非常に良い。定例講座も分科会も内容豊富、いい会合＝Group 会だと思う
- ・受付時間の厳守をお願いしたい
- ・時間が長すぎた

4. “わ”の会について

- ・新体制で令和元年度をよろしくお願い致します “わ”の会 20 年おあゆみの発行、期待致しております
- ・有難く参加させて戴いてます、勉強になります
- ・運営委員の方々... ご苦労感謝します
- ・①総会資料/収支決算書 宮脇書店のところミヤガワ書店と誤記 ②分科会活動報告の時間設定(最大 5 分)をすべきと考える

- ・分科会の紹介はもっと短くした方が良い
- ・①分科会の増設 ②開催日(土、日)の検討、いずれも会員数の増強にもつながるのではないかと思います。
- ・今年の新入会員ですが、よく組織されており感心しました。今後の会の活動に少しでも寄与できればと思います
- ・いつも有難うございます。
- ・よくやっけていただいている。ありがとうございます。
- ・分科会でビジター(1~2回のみ)参加の方法？
- ・運営委員の手ぎわがよく、よかった
- ・いつもいつも御苦労様です

「質疑応答」

1. 1,000 軒ではなく 200~300 軒では、地震ではなく海底地すべりでは
⇒痕跡は見つからない、では何だ。地震の記録も無い。外からの津波の影響も考えられない

運営委員会の意見・感想等

天候も良かつ学習会レジメ&パワーポイントが大変見事に編集されていて、実に素晴らしい。

切口、視点が通常の歴史学者とは違い、考えさせられる内容であったのでは。

伝承、葛飾北斎の絵、波に関する科学的論拠、実にアプローチが新鮮。

また 5 月の第 1 回学習会の講師を自前の会員にお願いした最初は 2009 年熊谷哲氏で 2010 年と連続務めて頂き、今年の平山氏で 11 年目です。実に当会のレベルの高さと会の為なら労を厭わない気合が充分感じられます。実に素晴らしい!!

“わ”の会代表 内田 孝知 記



第2回学習会

『長尾景春の乱から長享の乱』

編集委員 田野実 裕之

開催日：2019年6月8日（土）

13：30～ 16：00

会 場：金沢地区センター

講 師：東京大学 文学部研究員

谷口 雄太 氏

【概 要】

今回の講演内容は、「足利方と上杉方の対立である享徳の乱の最中、上杉方では長尾景春が乱を起こす（長尾景春の乱）。乱は太田道灌の活躍により鎮圧され、享徳の乱も終結するが、道灌が暗殺されると、上杉方は内部分裂を始める（長享

の乱）」というものである。

この二つの乱を理解するには、それに至るまでの経緯を知ることが必要とのことで、学習会の前半は、鎌倉幕府滅亡から享徳の乱に至るまでの経緯が説明された。

【鎌倉幕府滅亡から享徳の乱へ】

この間の経緯は、次のようなものである。

後醍醐天皇は、鎌倉幕府が滅びると、皇子たちを各地に将軍として派遣し、鎌倉には鎌倉将軍府を設けた。足利尊氏が京都に幕府を開くと、鎌倉には鎌倉府を置き、子の義詮に鎌倉公方として東国を統治させた。鎌倉公方の補佐役を関東管領という。その後、義詮を京都に呼んで将軍とし、鎌倉には基氏を送り、その子孫が鎌倉公方に就き。上杉氏が関東管領を世襲した。その管轄地域は、関東の8ヵ国に伊豆・甲斐・陸奥・出羽を加えた12ヵ国。鎌倉は、鎌倉幕府滅亡後も、関東の政治・経済・宗教の中心地であった。

鎌倉公方は、代を重ねるにつれ、京都の将軍や関東管領と対立するようになり、基氏曾孫の持氏

は、管轄外の信濃に出兵したりした後の1438年に乱を起こす（永享の乱）。しかし、敗れて自害し、鎌倉府は滅亡する。持氏の遺児を奉じて、残党勢力が挙兵するものの、敗れて遺児らは処刑される（結城合戦）。信濃に潜伏していた遺児の成氏が鎌倉公方に就き、鎌倉府は復活する。

しかし、1454年、成氏が関東管領の上杉憲忠（憲実の子）を誅殺したことで、鎌倉公方方と上杉氏方とが関東を東西に2分して、対峙する（享徳の乱）。

ここで、戦国時代は応仁の乱より13年早く、関東から始まったとして、『享徳の乱—中世東国の「三十年戦争」—』（峰岸純夫著）の一部が紹介された。

【享徳の乱・長尾景春の乱・長享の乱】

後半では、歴史の流れの中で、これら3つの乱が続く経緯について、次のように解説された。

享徳の乱で鎌倉府は崩壊し、成氏は古河に移り、古河公方となる。古河は関東の中心に位置し、交通の要所であったことから、選ばれたようである。この頃の関東は水浸し状態で水運が極めて重要だったとのこと。しかも、その東側には古河公方の支持勢力（宇都宮氏、小山氏、結城氏など）が控えていた。

上杉方は、古河公方に代わる関東の支配者の派遣を幕府に要請するが、伊豆に留めおかれる（堀越公方、将軍義政の兄）。

両者が対峙するなか、山内上杉氏の家宰 長尾景信の子 景春が家宰争いに敗れて兵を挙げ、対

古河の前線基地だった五十子陣を崩壊させる（長尾景春の乱）。この乱は、扇谷上杉氏の家宰 太田道灌の活躍により鎮圧される。この後、古河公方と関東管領、次いで京都将軍が和睦し、30年にわたる享徳の乱も終結する。

この間、扇谷上杉氏とその家宰 道灌は一気に台頭する。道灌が主君に謀殺されると、山内上杉氏と扇谷上杉氏が争うようになり（長享の乱）、伊勢氏（北条氏）の台頭を招くこととなると締めくくられた。

なお、道灌が謀殺された要因には、主君（扇谷上杉氏）・家宰（道灌）対立説、扇谷上杉氏の家臣団対立説、山内上杉氏の関与説などがあるが、はっきりとはしていないとのことである。

【感想】

中高生のとき 室町時代について学んだが、その多くは幕府に関するもので、関東に関する歴史はほとんど学んでいなかったように思う。今回の学習会では、その関東の歴史が丁寧に分かりやすくかつ簡明に紹介されたので、あらためて認識と理解を深めるよい機会になったのではないか

と思う。ただし、ある程度このあたりの歴史をかじった人にとっては、少々物足りなかったのではなかろうか。また、永享の乱や長尾景春の乱では金沢との接点があるので、そのあたりも触れていただけたら、遠いところで起きていた歴史も身近に感じてもらえたのではなかろうか。



2019 年度第 2 回学習会アンケート集計と運営委員会の意見・感想

アンケート集計

『長尾景春の乱から長享の乱』 講師：谷口 雄太氏

出席者		一般会員	委 員	計（出席率％）	ビジター	計	アンケート（提出率％）
	男	48	9	57(60.0)	0	57	
	女	10	1	11(55.0)	1	12	
計		58	10	68(59.1)	1	69	46(78.0)

1. 講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	チェック無し
36 名	8 名	1 名	1 名

- ・レジュメが判り易い
- ・レジュメが解り易くまとめてあり、丁寧な説明でよく理解出来た
- ・レジュメに即し、箇切れのよい説明は大変分り易かった。又、北条氏の出現台頭の説は目からウロコの理解でした
- ・本当に詳しくご説明下さり、ますます歴史に興味が....
- ・享徳の乱について良くわかった。太田道灌について勉強したくなった。古河の位置づけがわかった
- ・わかりやすい説明でした。歴史の人物の流れが理解できた
- ・わかりやすい説明でよかった
- ・大変分りやすい
- ・わかり易い説明、まとまりのある解説文
- ・大変分りやすかった 「太田道灌暗殺の背景」がおもしろかった
- ・かなり詳細に説明していただいた
- ・声が大きくはっきりした語り口で良くわかった。熱心さが大きく伝わって良かった
- ・分りやすくエネルギーに講演された点
- ・歴史の流れの説明で乱の理解が出来た。少し早口だけど
- ・はきはきと分りやすく説明して下さり、知らず知らずのうちに話術の引き込まれる程の講義でした
- ・地図や図表が分りやすく整理されている。京都・公方・管領の葛藤が理解できました
- ・享徳の乱及び長享の乱の講演大変良かった。講演の声が大きく聞きやすかった
- ・年号明記でわかりやすいです
- ・将軍・公方・管領の関係がよく理解出来た
- ・話しの内容に引きつけられて、楽しい時間でした
- ・資料が分りやすく出来ている、話もはっきりし分りやすかった
- ・難しい話でありましたが、何となく分った様です、でも難しかったです
- ・解説が面白かった、次回も期待したい
- ・戦国時代の前史がよくわかり、理解が深まった

- 熱い講義に若さと知識がにじみ出て、とてもわかりやすかった。話しぶりも若干早口もあるが明瞭でよかった。利根川を境に東西に分かれて関東の NO.1 と NO.2 の争いが理解できた。応仁の乱よりも前の関東の乱が戦国時代の幕明け説も納得できた。北条氏(早雲)が関東に入れた理由も...
- 室町時代の基礎知識の説明がよかった、その結果戦乱の流れがよく分った。早口のため分りずらいところがあった
- 早口ですが情熱的で声も大きくぎりぎりの説を聞く事ができた(資料の少ない中で) 歴史的に難解の時代を知る事ができたことはよかった。明解で詳しい講義だった
- 若干早口乍ら、滑舌も良く、非常に解り易かった
- 資料よりの話、良く理解出来た
- 京都将軍足利、管領、関東公方との相関が詳細を理解した。上杉と長尾氏が越後の上杉謙信につながった
- 将軍、公方、上杉の関連がよく理解できた。戦国時代の始りは享徳の乱との説興味深い
- 将軍、公方、管領の構成と役割が良く理解出来た。さすが説明が解り易い
- 鎌倉体制の崩壊、原因が良く分った。鎌倉公方と室町幕府の対立、戦国時の発端、応仁の乱より 13 年早く関東から始まった
- 関東管領と古河公方の対立の原因が良く分りました
- 鎌倉幕府滅亡後の関東の歴史、特に公方と管領の動き、京の室町幕府との対立等、正直なじみのない言葉等興味が改めてわいた
- 歴史上の事実を正しく把握することの困難さとその事実の持つ歴史的意味をどう理解し、どう評価するかを考えさせられた
- マイナーな専門的な学習が出来て良かったです。できればもう少し範囲を狭くして深い説明が聞ければ良かった。ざっくりの説明となったのが残念です
- 講義・資料共大変良かったです。今後の講義に期待してます
- 今まで知らなかった武将の名前や乱の話で大変興味深かった
- 1. 応仁の乱とどうつながるのですか? 2. 各乱の原因・発端と結果の要点を簡潔に!!まとめられないでしょうか
- 再学習が出来た。戦国時代のイメージは出来るが、なかなか分りにくい

2. 谷口講師に希望する講演テーマについて

- 太田道灌を掘り下げてもう少し知りたいと思います(谷口先生で) “江戸城” を作った人! 程度しか知りませんので
- 太田道灌について
- 北条政子は良妻か悪妻か
- 足利高氏(尊氏)と新田義貞・・鎌倉幕府倒と室町幕府の初体制?
- 戦国時代に於ける三浦一族の関わり方
- 鎌倉北条氏
- なんでも

3. 学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	チェック無し
20 名	14 名	1 名	11 名

- お話を聞く内に“テレビドラマ”を観ている様に感じられました。(人間の“心”模様を度々聞きながら…。ですが)
- 地元：古河の地理と重要性を知る事ができた。有意義であった
- てぎわよく、会場手続よかった。幹事様の御苦労に感謝します
- いつも御苦労様です。講師を見つけるのは大変だと思います、感謝いたします
- 良い先生を見つけて頂き、ありがとうございます
- 鎌倉幕府崩壊と応仁の乱へのつながり
- 貴重な資料をありがとうございました

4. “わ”の会について

- 定例講座のテーマは内容、Level も良い、追いつくのが大変!!
- 学習会を継続していただきたい
- ありがとうございました

「質疑応答」

1. 長尾景春が乱を起すまでの時間に山内上杉は対策を取ったのか
⇒資料が残っていないので良く解っていない、景春憎しと味方の両立で主君として動きにくかったのでは
2. 景春の与したのはどういう勢力か。個人的な遺恨に同調して与したとは考えにくい、…。
⇒景春に協力的な人と対立する人たちがいたのであろう。
3. 当時、金沢は山内上杉氏の領地だったが、道灌に攻められている。山内上杉氏の被官の中にも景春に与する者がいたということか
⇒山内上杉氏の中でも分裂状態であったようだ。

運営委員会の意見・感想

天候も良く、かつ学習会レジメが大変見事に編集されていて、パワーポイントを使わず、ビジュアルに頼ることなく、内容と資料の活用の妙で参加者を魅了したのでは。

午後の開催で、かつかなり専門的なテーマで参加人数に少し不安が有りましたが、結構な参加率でホッとした面とやはり歴史好きの会員の面目躍如たる面の発露かなと感じた次第です。

① 室町幕府(将軍)、鎌倉府(公方)、管領の存在 ②足利一族の利害関係、家臣団との関係 ③戦国時代の先駆け等 7月、9月の学習会、2月の公開歴史講座への楽しみが一段と出て来たのではと感じた講演でした。

“わ”の会代表 内田 孝知 記



第3回学習会

『永正の乱 一両上杉と伊勢宗瑞』

編集委員 相川 勲

開催日：2019年7月13日（土）

9：30～ 11：30

会 場：金沢地区センター

講 師：東京大学大学院 人文社会系研究科

助教 木下 聡 氏



はじめに

15世紀から16世紀初期まで東国では永享の乱(1438～1439)、享徳の乱(1454～1478)、長享の乱(1487～1505)、永正の乱(1506～1518)と戦乱続きであった。鎌倉(古河)公方、山内及び扇谷の両上杉はじめ地方豪族が味方になったり敵になったりして争っていた。

永正の乱は永正3年(1506)～永正15年(1518)の永正年間に古河公方の親子(足利政氏と高基)の

対立に端を発し、調停に入った山内上杉やそれぞれの思惑を持ってどちらかを担ぐ東関東の豪族たちが争った争乱である。

その間隙について伊勢宗瑞が伊豆から小田原そして相模国に進出した。また、両上杉の勢力は衰退するなど乱が治まった時には関東の勢力図が大きく変化した。

1. 伊勢宗瑞の台頭

一般的に北条早雲で知られるが、北条に改姓したのは2代氏綱で生前は伊勢新九郎盛時、入道宗瑞であったのでここでは伊勢宗瑞を用いる。

○ 出自

備中・伊勢氏と京都・伊勢氏を両親に備中荏原庄で生まれた。両親は足利幕府政所の申次衆で將軍・義政に仕えた。宗瑞も申次衆として將軍・義尚や義植に仕えた。姉・北川殿が駿河国守護・今川家に嫁いでいる。

○ 東国への進出

今川家の家督争いを契機に駿河へ下向して調停、内政にも関与、明応の政変（堀越公方政知の子・義澄を11代將軍に擁立）後の堀越公方の内紛に乗じて明応3年(1494)伊豆国に乱入し、支配下に収めた。宗瑞の小田原城奪取の時期は特定されていないが、現存資料では明応5年(1496)以降永正元年(1504)以前としか解明されていない。山内上杉に寝返った小田原城主・大森氏を宗瑞が扇谷上杉の容認のもとで攻略し手に入れたと見られる。

2. 永正の乱

○ 第1次古河公方家の内訌

長享の乱の後、関東管領・山内上杉顕定は古河公方・足利政氏の弟・顕実を養子にするなど結びつきは良くなり、公方と管領本来の姿に戻った。

永正3年(1506)4月、古河公方・政氏の嫡子・高基が妻の実家・宇都宮家へ移る。理由は定かではないが家督相続をしてくれない父に対する不満など考えられる。この時は管領・顕定の素早い仲裁が実り1年4ヶ月ほどで高基が詫言を入れる形で古河に戻った。

○ 第2次公方家内訌と上杉顕定の越後侵攻

永正5年政氏と高基との争いが再燃、永正6年顕定が調停に入った。永正6年6月親子が和議に至る見通しが立ち、7月に顕定は越後への出兵を決行する。

顕定は越後国守護の上杉家から山内上杉家に入った養子で実家を弟の房能が継いでいた。永正4年、房能の養子・定実を抱き込んだ守護代・長尾為景に攻められ房能が自害する事件が起きた。敵討ちもあろうが越後は山内上杉家の重要な兵站基地(越後からの援軍も含め)でもあったので、顕定は養子・憲房を伴い越後へ出兵する(憲房を越後国守護に据える思惑もあったようだ)。

当初は長尾為景等を越中へ追い払い越後を占拠する勢いであったが、留守の関東を伊勢宗瑞や長尾景春が侵略・攪乱したり(為景と呼応があったか)、長尾為景等は佐渡から上陸して反撃に出てきたので、上野へ退却する。途中、永正7年6月上杉顕定は討死してしまう。養子・憲房は上野に戻るが家督を継いだもう一人の養子・顕実(足利政氏の弟)と対立し、関東管領・山内上杉家の分裂を招く。

【閑話休題】

宗瑞の享年は「伊勢系図」に享年88歳とある。永正16年(1519)7月2日三浦三崎で発病、8月15日菰山で没するという記録がある。これより生年を計算すると、生まれは永享4年(1432)となるが、東国での活動の年齢が老齢で不

一方、伊勢宗瑞や長尾景春の侵攻に対し相模国守護・扇谷上杉朝良が討伐軍を出したり、扇谷と山内両上杉の提携も成った。

○ 第3次公方家内訌と各地への波及

永正7年6月、足利高基は下総国関宿(野田市)に移り、再度政氏に対抗する。この争いは関東全域や陸奥まで影響を及ぼした。

政氏方：山内上杉顕実・扇谷上杉朝良・下野小山氏・常陸佐竹氏・陸奥岩城氏・武蔵成田氏・上総真里谷武田氏

高基方：山内上杉憲房・下野宇都宮氏・下野結城氏・常陸太田氏・下総千葉氏・弟の雪下空然(還俗して義明)

永正9年劣勢の政氏は古河城から小山城へ退去、さらに小山氏の裏切りで岩付城に移ったが永正15年(1518)上杉朝良の死去により最大の支持基盤を失い、隠棲を余儀なくされた。

高基方の勝利が確定し、古河城に入った高基が古河公方の地位を継承し、永正の乱は終息した。

○ 伊勢宗瑞の相模制圧

永正6年山内上杉顕定が越後へ出兵した間隙を縫って、友好勢力であった扇谷上杉の相模の領内を攻撃したり、武蔵国や甲斐にも攻め入っている。永正9年三浦同寸の岡崎城を攻め落とし、これをきっかけに三崎・新井城まで撤退させる。この間玉縄城を築き鎌倉に入っている。新井城に籠る三浦氏への扇谷上杉の援軍も阻止し、永正13年(1516)7月新井城は落城、三浦氏は滅ぶ。伊勢宗瑞は相模全域を支配下に置き、伊豆と相模2ヶ国の大名となった。

自然となる。宗瑞の伯父(母の兄)が永享4年生まれ「子」年、宗瑞も「子」年であるので混同された疑いがある。現在は諸事例から康正2年(1456)生まれの「子」年と24歳若く見直されている。享年は64歳となる。

2019 年度第 3 回学習会アンケート集計と実施報告

アンケート集計

『永正の乱一両上杉と伊勢宗瑞一』 講師：木下 聡氏

		一般会員	委 員	計（出席率％）	ビジター	計	アンケート（提出率％）
出席者	男	52	9	61 (60.0)	0	61	45 (70.3)
	女	11	1	12 (55.0)	1	13	
計		63	10	73 (59.1)	74	74	45/64

1. 講演内容評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	D. つまらなかった
8 名	25 名	10 名	1 名

※チェック無し：1 名

- ・ 応仁の乱に続く乱の性格が良く分った
- ・ 資料がノートをとった様にわかりやすく、整列の語句並び、それにそった解説で複雑な人間関係の動きが理解出来た
- ・ 永正の乱をはさみ、関東地方の変化がわかった
- ・ 「永正の乱」を真正面から説明いただき、なんとか理解が進んだ。当時、関係は乱れに乱れた。「後北条」の勢力拡大につらなった。理解は進んだ
- ・ ちょっと混乱しましたが北条早雲がわかったので良かった
- ・ 登場人物が多すぎて、大変な話の部分も細かく説明がされていたと思いました。「.. ああ、そうなんだ..」と納得出来ました。文章・記述も多用して頂き、当時の詳しい混乱状況も良く分かりました
- ・ 京都の政権の勢力があまりおよばない関東において、関東の支配者公方と NO.2 の一族上杉氏のゴタゴタがあることにより、従来の上下関係から縁のない伊勢宗瑞(北条早雲)や越後の長尾家が上杉氏をついで上杉謙信の出現につながる時代の事が良く分かった
- ・ おぼろげ乍ら理解出来た
- ・ 細かく話されたことで、大すじがかえって良く分かりました
- ・ 声が通り聞き易かったです
- ・ 流れはわかったのですが、相対的によかった
- ・ 山内、扇谷上杉の勢力戦い、長尾、古河、堀越公方等の動きが詳しく分かった。宗瑞の動向も最新の研究を知れて勉強になりました
- ・ 聞きやすい、人物の関係がややこしい
- ・ 永正の乱の総体はこの講演では把握しづらいが、詳細な各論の説明は理解の一助となります
- ・ 永正の乱、面白い内容で興味深いものでした。自分なりにもう少し勉強してみたいと思います
- ・ ていねいにご説明いただきましたが、残念ながら理解できなかった
- ・ 自分自身に基礎知識がないため、理解が十分できなかった
- ・ 扇谷上杉と山内上杉と伊勢宗瑞との関係が良く解らない。足利についても今一である

- ・ 相関関係が複雑で分かりにくかった。後刻レジュメをよく読んで理解したい
- ・ 良かったが頭の整理が出来なかった
- ・ 数多い乱の関係が混乱してしまって理解が難しかった
- ・ 室町・戦国時代のこと、もっともっと勉強しなければと感じました
- ・ 関東の争乱が複雑すぎて理解出来なかった。争乱の柱と云うか大きな流れが見えず、個々の戦乱の説明になってしまった感がある
- ・ 永正の乱 そのものがはっきり分からなかった。伊勢宗瑞の進出のキッカケになった
- ・ 系図を説明資料として配布して戴きたかった。伊豆ー小田原ー越後ー神奈川(相模、三浦)... 近在の歴史講話となり有難く拝聴しました
- ・ 地図・系図があればもっと分かりやすかった
- ・ 永正の乱 むずかしかった
- ・ 永正の乱について、知ることができて良かった。登場人物が多すぎて、ちょっとわかりにくい。声の調子が悪かったのが残念
- ・ 係累が複雑、理解出来ない。講師の熱弁に答れず申しわけない
- ・ わかりにくかった
- ・ 両上杉と伊勢宗瑞をそれぞれ分けて講演してもらえれば良く分かったかも。範囲が広すぎたのでは
- ・ 夫々の家系図がレジュメにあると理解し易かったと思う。
“わ”の会は「武州金沢」に軸足を置くとしている上からは少し無理(こじつけ?)があっても、金沢との結びつき・関連を話題に入れて下されば嬉しい(今日のテーマでは無理かな〜?)「金沢に軸足」こそ他の歴史の会との違いを表すものと考えられるからです
- ・ 浅学をたなにあげますが「永正の乱」は初耳でした。享徳、長享と続けてくれるので興味深かった
- ・ 系図の展開になかなかついて行けなかった
- ・ 人間関係を示す映像をプリントに入れて欲しかった。人物の人柄をもっとかみくだいていただくと良いと思った。本日ありがとうございました
- ・ 歴史はむずかしい

2. 木下講師に希望する講演テーマについて

- ・ 中世に乱が多発した根本理由について講演して欲しい
- ・ 講師の専門の中からで、具体的には？
- ・ 上杉家全体の流れ、関係について
- ・ 次回の講演が今回と同じようなテーマで宜しくお願いします
- ・ 日と改めて、ex まず同テーマで講義願いたい、1回では理解出来ないです
- ・ 続きをお願いします

3. 学習会運営評価

A. たいへん良かった	B. 良かった	C. 普通	チェック無し
13名	16名	6名	10名

- ・ 新しい講師の掘り起こしで今後おもしろくなりそうで期待します
- ・ 講師の発声が良いのか、マイクの調整が良かったのか久し振りに全部を聴きとることができました

- 詳細は不明です。伊勢の軍勢が関東全域に渡って混乱招く、相模、三浦、千葉にまで勢力を伸ばして行くのだろうか。人入り乱れ
- 毎回御苦労様です
- 時間運営が正確だった
- スムーズな運営進行
- ありがとうございました

4. “わ” の会について

- 能見台地区センターは開会準備は多忙なり、班別にて応援準備はいかがでしょうか？
- クーラーが効きすぎて冷えまして
- いつも面倒な運営ありがとうございます



運営委員会の意見・感想

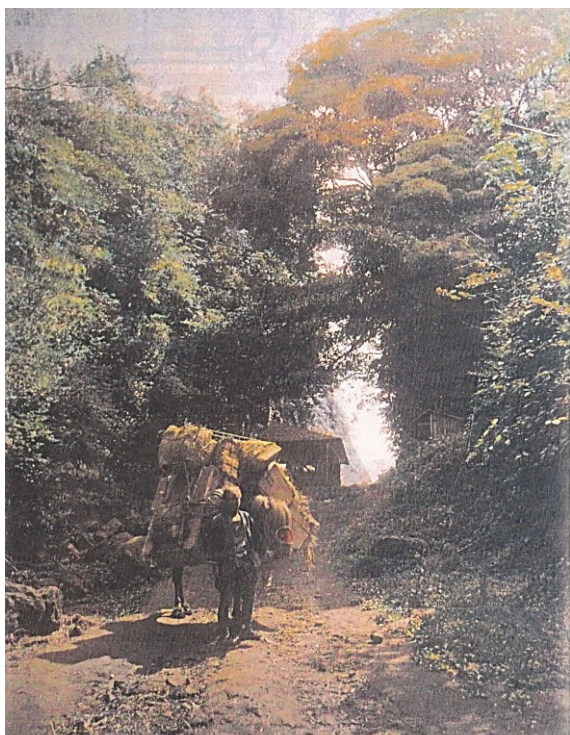
天候も梅雨の合間の晴れ間、実際は曇りでしたが、暑くもなく寒くもなく学習会日和でした。前回に引き続きマニアックなテーマで参加が少ないのではと心配しましたが、74名(ビジター1名含む)と杞憂に終わり、ホッとした所です。レジュメはしっかりとした流石と言う内容ですが、アンケートにも指摘があります様に系図、地図などをレジュメに添付していればもっと内容理解が進んだのではと少し残念な点と、主催者サイドからその点を踏み込んで要請をしていればと悔やまれる部分です。今後はレジュメを良く読み込んで、付属資料的に別添でも宜しいので対応を検討して行きたいと考えます。9月の三浦道寸、10月探訪、2月公開歴史講座(太田道灌)と楽しい今後ではと1人悦に入っている現在です。

“わ” の会代表 内田 孝知 記



「馬方の立つ切通の風景」

“わ”の会 会員 渡邊 紀一



朝比奈切通し（手彩色古写真／明治10年代／日下部金兵衛撮影）
金沢と鎌倉を結ぶ切通し。鎌倉時代に開通し、幕末・明治期には、遊
覧客や物資を運ぶ生活道路として利用された。峠の茶屋も見える。

fig 1

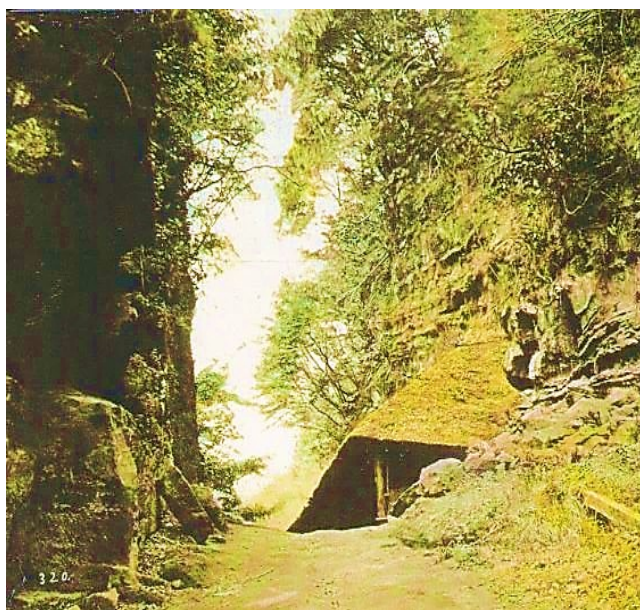


fig 2

Fig1、2 はいずれも手彩色(=着色) 写真である。
Fig1 はいつ、どこで入手したか思い出せないでいたがこの原稿を書いているとき手を伸ばせば取り出せる位置に「ぶらり金沢散歩道 楠山永雄著」が目についた。若しかしたらと開くと案の定この写真である。何故かコピーが葉の様に挟まっていた。

人と馬が同時に写っている珍しさもあって、コピーしておいたものと思う。Fig 1 には次の文言が写し込まれている。この文言は原画にある筈もなく、後世の人が写真の補足説明のために挿入し

たものであろう。

“朝比奈切通し（手彩色古写真明治/10 年代/日下部金兵衛撮影）金沢と鎌倉を結ぶ切通し。鎌倉時代に関通し、幕末・明治期には遊覧客や物資を運ぶ生活道路として利用された。峠の茶店も見える。”

左手側は熊野神社に導く。正面を真っ直ぐ行けば鎌倉に至る。深い木々を通して見える青空は鎌倉、江ノ島のそれに違いない。日差しは明るく、向こうに茶店と想像できる茅屋が垣間見える。こぼれんばかりの荷駄を積んだ馬方の足元の濃い影は

真っ盛りの夏が凝縮している。馬方はひと息ついて、辺りの景色に見入っている風情である。そんな風のような姿は風景の一部になっている。

ここは朝比奈切通である。峠を境にして Fig 1

は金沢側、fig 2 は鎌倉側であろう。鎌倉に向かうのなら荷駄は塩に違いない。

Fig 2 は金沢図書館郷土資料棚にある「図説 かなざわの歴史」から転載した。

鎌倉七口（かまくらななくち）

三方を山にかこまれた鎌倉への陸路の入り口を指す名数。

建久2年（1192）源頼朝は鎌倉に幕府を開いた。

（イイクニツクロウ、カマクラバクフ（笑））。

平家を滅ぼした源頼朝は、建久3年（1192）征夷大將軍に任ぜられ、鎌倉に幕府を開いた。

（イイクニツクロウ、カマクラバクフ（笑））。

鎌倉幕府は開府以後一貫して道路整備や新設に意を注いできた。所謂鎌倉街道は年貢や物資の運搬、人馬の往来、諸国に派遣した御家人の招集、商業活動などの発達に効果があった。鎌倉に幕府を開いた最大の理由は、鎌倉が特異な地形であることにある。一方は海に臨み、三方を山に囲まれて敵の攻撃から守る天然の軍事的要塞の役割を果たすからだ。しかし、要塞であることは裏腹に鎌倉の人の往来、物資輸送には困難を来した。そして、海路には港（和賀江島）を、山や丘などを開削した切通しを必要とした。

鎌倉中の道路は頼朝が幕府を構えて以来大いに整備・拡充された。また頼朝が鎌倉入りした時、単なる農・漁村に過ぎなかったこの地はまさに中世において幕府の根拠地・首府として非常な発展を遂げた大都市の典型と言える。

鎌倉時代には「七口」の呼び名は無く、京都の「七口」を模倣した呼称で、鎌倉「七口」「七切通」

と通称されるようになったのは江戸時代以降のことである。名数の例を他に挙げれば「金沢八景」「鎌倉七座」「金沢七井」「金沢四石」などがある。鎌倉七口というのは一般に次の七つである。他説はないという。

- ・極楽坂切通、
- ・大仏切通、
- ・化粧坂切通
- ・亀ヶ谷坂切通
- ・巨福呂坂切通
- ・朝比奈（朝夷奈とも）切通
- ・名越切通

「切通」の資料上の所見は江戸時代初期 1642～1644 年頃に書かれたと思われる『玉舟和尚鎌倉記（ぎょくしょうおしょうかまくらき）』。

その後 1659 年の「金兼藁（きんけんこう）」、1674 年の徳川光圀「鎌倉日記」、また光圀が命じて編纂させたと言う『新編鎌倉志』などがある。

現状の鎌倉七口は巨福呂坂切通が新道となり痕跡だけ残り消滅。極楽坂切通も普通の車道となり明治時代以前の趣きを残しているのは大仏切通、朝比奈（朝夷奈とも）切通、名越切通の 3 か所と化粧坂切通、亀が谷坂切通を数えるのみ。1996 年、文化庁選定「歴史の道百選」に「鎌倉街道-七口切通」として選出された。

朝比奈切通

鎌倉七口の一つ、鎌倉と武蔵国久良岐郡六浦とを結ぶ六浦道にあり、十二所と峠村との間で山越

えをする坂道。峠坂・金沢切通とも呼ぶ。十二所村と峠村との境界に大切通、その東よりの峠村内に

小切通と、大小二つの切通がある。

和田義盛の三男で豪勇の朝比奈義秀が一夜にして切り開いたとの伝説から、その名が起ったという。仁治元年（1240）11月30日幕府は、鎌倉一六浦間の道路建設を決定し、御家人らに分担を命じて明くる年三月以後に工事を開始することにし、4月5日から執権北条泰時のもとに着手したが工事は難航し、5月14日にはついに泰時自身が現場に出向き自ら馬で土砂を運んだという。

人々は大いに奮って働いたと記録されているとある。これが朝比奈切通の開削と建設を意味したことは疑いない。江戸時代に入ってからもしばしば改良工事が行われた。鎌倉の都市としての発展に伴い三浦半島を経由せずに直接房総方面や良港の六浦津と連絡する道路の開通が求められていたのであろう。建長2年（1250）六月三日、六浦への道が土砂に埋もれたため、再度の工事が命ぜられた（吾妻鏡）。この切通の重要性和、その保持に困難が多かったことがうかがわれる。中世・近世から明治年間まで六浦と鎌倉を結ぶ道路としての利用も多く道路改修工事もしばしば行われたらしい。幕府の防衛意識は微細に入り曲がりくねった狭い道に山腹を垂直に切り落とした切岸」や道の上に兵士たちを待機させた平場」、道の真ん中に大きな自然石を置いた置石」。鎌倉にはこのような切通が相当数あると言われる。外敵の鎌倉への侵入を防御する役割も担っていた。後醍醐天皇による鎌倉幕府討幕、公家政権復活のための政変で、新田義貞の鎌倉攻めをいつも悩ませていたのがこの切通の存在であった。このように軍事的要路を整備しつつ鎌倉の経済を支える金沢六浦からの物

資の輸送があった。

和賀江島は現存する日本最古の築港で国の史跡に指定されている。遠浅で荷物の積み降ろしが不便、着舟が流されるなどの被害が多く天然の良港とは言い難く、それでも三方を山に囲まれて使わざるを得ず改善、修理しつつも江戸時代中頃まで使用していたらしい。（以下、顛末は長くなるため省略）江戸時代になっても和賀江島は材木座村や小坪村の舟の繋ぎ場として重宝されていた等の話が残っている。また鶴岡八幡宮の修復工事の際、材木や石を運んできた船の停泊する場所であり少なくとも元禄9年（1696）、10年ごろの八幡宮修理の時には同時に島の修復工事が実施された。

江戸時代以降古都として寺社大山参り、江ノ島参詣を兼ねて鎌倉遊覧が庶民の間で盛んに行われるようになった。中世・近世から明治年間まで六浦と鎌倉の往来は盛んになり利用者の加増に伴い道路の改修もしばしば行われたと記録にある。特に江戸中期以降は江ノ島参詣と兼ねて鎌倉遊覧が庶民の間で盛んに行われるようになった。大山参りも盛んになりその帰りに、あるいはその序に金沢に寄った。ここ切通は険しい峠路であるにかかわらず茶店を盛況にしたと思う。金沢は魅力的な地であった。今言う高級料亭、千代本楼、旅籠東屋、扇屋、八景のほかには富士が見えることで名づいた九覧亭は多くの客で賑わい、客を迎える準備は整っていた。

鎌倉前面の海は外港として六浦が役割を果たすようになるなど鎌倉一金沢の朝比奈切通の通行はますます盛んになった。

手彩色古写真(＝着色写真)

18世紀から20世紀にかけて、風景・人物・文化その他の事象の写真を撮り、これを白黒印刷した物に彩色を施したもの。彩色はすべて手作業のため一枚ごとに色が異なっている場合が多い。従

ってこれらの写真は厳密には所謂、天然色写真ではない。客は外国人が多く、長崎、横浜の物が多数を占めた。

日下部金兵衛（くさかべきんべえ）

天保 12（1841）甲府の御用商人の家に生まれた

金兵衛は 17 歳の時に江戸へ出奔、安政 6 年（1859）頃、生活の糧を求め横浜に移り、開業間もないベアト&ワグマン（ベアト；イギリス写真家。生麦事件の現場撮影、ワグマン；イギリス人、画家・漫画家。幕末記者として来日、当時の日本の様子・事件を書き残した。二人は横浜で商会を設立）のスタジオに雇われ、写真の世界に足を踏み入れる。当初はベアトの助手として雇用され着色作業に従事していた。その後、ベアトがスタジオを閉じた明治 10 年（1878）から明治 14 年の間に独立、弁天通りに「金幣写真」の商号で写真館を開いて本格的に活動開始。開業後は順調に事業を拡大。

やがて、横浜市内に幾つかの支店を出すまでに繁盛。明治 23 年本町へ移転、更に芝や銀座にも支店を開設。遺憾なく着色技師としての力を発揮、外国人向け土産物として美しい彩色写真で大成。横浜を代表する写真師になっていた。金兵衛の手による写真は同時代の写真たちと比べて際立ったものが多く、美への追及心を思わせる物でした。そうした主製品の風俗写真は常時 2000 種を超

えてストックされ、現在「金幣アルバム」などとも称され外国人の日本土産として海を渡って行った。彼のアルバムの殆どは表紙を蒔絵で施した豪華なものであった。明治 30 年代から 40 年代になると大量生産を

可能にする写真製版技術、とりわけ絵葉書の流行などに押され工芸品としての写真は徐々に時代に取り残され衰退していく。横浜の商業写真文化の中心にあった「金幣」写真館も大正元年（1912）に金兵衛が引退した二年後（1914）には明治という時代に殉じるように幕を下ろした。金兵衛の晩年は日本画を描いて余生を送り昭和 7 年（1932）4 月 19 日、神戸の孫の家で逝去。

享年 92 歳



【参考】日下部金兵衛の横浜をテーマにした手彩色写真の一部



『寺社を巡る会』活動記録 令和元年度第1回～第3回

第1回 旧東海道の神奈川宿を歩く

開催日：令和元年5月2日（木）

参加人数：男性24名 女性8名 合計32名

コース：京急神奈川新町駅（集合）→長延寺跡→良泉寺→金蔵院→熊野神社→神奈川地区センター（昼食）→成仏寺→慶運寺→宗興寺→本覚寺→大綱金刀比羅神社→台の茶屋→神奈川台の関門→かながわ県民センター（解散）

元号も令和となり令和最初の寺社を巡る会がスタートした。今年度は8回に亘り神奈川区いまむかしガイドの会の案内での計画である。神奈川宿は東海道53次の江戸から3番目の宿場、神奈川湊を控え物流の拠点であつた。街を歩いていると開港時の諸外国の領事館が沢山神奈川宿にあつたことがわかる。

良泉寺 江戸時代初期に移転された浄土真宗大谷派の寺院、本尊阿弥陀如来立像があり、外国の領事館への利用を拒否。

能満寺 鎌倉時代の虚空蔵菩薩坐像があり、門前に芭蕉の句碑がある。また山門が平成28年に建築され4体の四天王像が見事である。

東光寺 平尾内膳が室町時代に創建。太田道灌との戦いに敗れたが敵に認められ建立された。慶応の大火で燃え尽きたがイチョウの大木が今も元気に育っている。

金蔵院 1087年創建の神奈川宿で最古唯一の勅願寺、菊の紋が許され徳川の休泊所でもあった。真言宗智山派、本尊は阿弥陀如来立像である。

成仏寺 鎌倉後期に創建、開港当時アメリカの宣教師の宿舍となる。ヘボン博士が居住した。

慶運寺 別名うらしま寺と呼ばれている。開港時

フランス領事館となっていた。

浄瀧寺 鎌倉時代中期に妙湖比丘が開祖、境内の権現山から滝が流れていた。イギリス領事館があつた。

宗興寺 創建の時代は不詳だが、室町時代中期の鎌倉八幡宮関係の文書に記載されている古刹、安政6年シモンズが居住、その後ヘボン博士が診療所を開設し3500人を無料診療した。

宮前 神奈川湊の辺りは旅籠や廻船問屋でにぎわった。

甚行寺 江戸時代神奈川宿の呉服商伊勢屋甚右衛門の創建、開港後一時フランス公使館が置かれた。

本覚寺 鎌倉初期に創建、山門は神奈川宿唯一の江戸時代の建造物、開港時はアメリカの領事館となっていた。横浜開港を提唱した岩瀬肥後守忠震の記念碑がある。

帰り道、台町の往時の武蔵一の景勝と称賛された袖ヶ浦を通り、片側に茶屋が並んでいる様子を想像しながら横浜駅に向かった。PM2:30解散。
(瀬川 健次 記)



慶運寺
本堂



甚行寺

第2回 妙蓮寺から菊名池や白幡池を巡る

開催日：令和元年6月6日（木）

参加人数：男性24名 女性7名 合計31名

コース：東急東横線 妙蓮寺駅（集合）→妙蓮寺→菊名池弁財天→菊名池→慈雲寺（法話拝聴）→白幡身代り地蔵尊→白幡池→県知事公舎跡→二つ池→県立武道館（昼食）→岸根公園→農業振興地域→塩簗地蔵→神大寺跡→宝秀寺（解散）

妙蓮寺駅を降りると、すぐそこに妙蓮寺がある。それもそのはずで、妙蓮寺が提供した境内の一角を東横線が通り、その代わりとして駅が設けられたとのこと。横浜線の引込線敷設に際し、仲木戸にあった妙仙寺とこの地にあった蓮光寺（いずれも日蓮宗池上本門寺の末）が一体化してこの寺ができ、妙蓮寺と号したという。いかにも日蓮宗といった寺号である。ここをスタートとして、菊名池に向かう。その途中、山車を転用した社殿があり、剣と宝玉をもつ二臂の弁財天が祀られている。社殿の彫刻が見事である。菊名池は灌漑用水として使われた巨大な湧水池だったが、今はその一部が残り、絶滅危惧種のコウホネが小さな黄花を咲かせている。次いで、慈雲寺を訪れ、住持（尼僧）の法話を聞く。この寺も日蓮宗で池上本門寺末。「大事なのは体」との言葉で始まり、周りの人、故人、祖師らに教えを請うことで、苦境も乗り越えることができ、物事が成就し信仰心が深まると説く。その後、内陣に上げていただき、一塔兩尊等と祖師像を拝観する。法話での穏やかな様子とうって変わり、読経の声と太鼓の音の力強さに驚かされる。白幡池へ向かう途中に、身代りになることで幼い兄弟を辻強盗から救ったという地蔵が

ある。白幡池にはスイレンが咲き乱れていた。篠原園地の高台には県知事公舎があったとのこと。昼食は岸根公園内の武道館でとる。横浜スタジアム建設のために、池の一部を埋立て、ここに移されたとのことである。ここに来る途中にもかつては二つ池という大きな池が対であったとか。かつての金沢は広大な内海があったが、この地域には広大な湧水池があちらこちらにあったようである。岸根公園は皇紀2600年に計画されたものだが、戦時中は高射砲陣地となり、戦後は朝鮮戦争やベトナム戦争の後方基地となり、…という経緯をもつ公園である。公園を抜けると、農業振興地域がある。氷取沢の農業専用地区と同じようなもので、キャベツ生産が主とのこと。ここにも塩簗地蔵がおわす。大量の塩に囲まれて…。このあたりを神大寺という。かつて小田原北条氏の家臣が建立した神大寺があったが、焼失・移転し、地名だけが残ったとのこと。最後に訪れたのが浄土宗の宝秀寺。塀の瓦には葵の御紋が刻され、門前には「六角橋」という名の由来を記した碑がある。そこにはヤマトタケルがこの地の豪族の庵に泊まった時、六角の木の箸を贈ったことによるとある。意外さと驚きのなかでの解散となる。（田野実 裕之 記）



妙蓮寺
本堂



慈雲寺
本堂

第3回 生麦事件の現場を巡る

開催日：令和元年7月12日（金）

参加人数：男性22名 女性5名 合計27名

コース：京急鶴見駅（集合）⇒ さぼてん茶屋跡 ⇒ JR国道駅 ⇒ 慶岸寺 ⇒ 生麦魚河岸通 ⇒ 正泉寺（法話拝聴）⇒ 道念稲荷神社 ⇒ 生麦事件現場 ⇒ 原神明社 ⇒ 生麦事件碑 ⇒ キリン横浜ビアビレッジ（解散）

横浜開港まもない、今から157年前の文久2年(1862)8月21日、日本の歴史を大きく変える生麦事件が起きた。生々しい話を聞きながら、その現場となった旧東海道の地を訪ねた。

旧東海道は慶長6年(1601)天下を平定した徳川家康が整備。参勤交代で西国大名140数藩がこの道を通った。鶴見から生麦にかけては川崎宿と神奈川宿の間の立場(休憩所)として賑わった。

さぼてん（霸王樹）茶屋：寛政年間に高さ3.6mの大さぼてん5株が珍しいと見物人が押し寄せた。明治44年の鶴見の大火で焼失。

熊茶屋跡：立場茶屋としての多くの茶屋が工夫を凝らしていた。その中で「月の輪熊」を飼って見せ物にしていた茶屋。白熊(白子)を飼っていた茶屋もあり、シーボルトの「日本動物誌」の中に熊がいる茶屋があるとの記載あり。

JR国道駅：昭和5年に鶴見臨港線の駅として造られたアールデコ形式の駅舎が珍しい。大正15年貨物線として始まり、昭和18年国鉄に買収され鶴見線となる。

慶岸寺：天正年間に創建。浄土宗。門前に子育て地藏尊を祀ってある。本尊は阿弥陀如来像。

生麦魚河岸：JR国道駅から300m程の間に約35軒の鮮魚貝店が並んでいる。開発等で漁師町が次々と姿を消していく中で、この

通りが生きて残っている背景は明治、大正、昭和に「ボテさん」と呼ばれた行商人たちの地道な努力と信用があった。

正泉寺：（法話拝聴）真言宗智山派。本尊は薬師如来坐像。門前に亀地藏、心中者の供養塔がある。

道念稲荷神社：毎年6月に行われる「蛇も蚊も祭り」は横浜市指定無形民俗文化財。

生麦事件現場：文久2年(1862)8月21日に、薩摩藩の島津久光の行列に乱入した騎馬のイギリス人を、供回りの藩士たちが殺傷(1名死亡、2名重傷)した事件。この事件から薩英戦争にまで発展する。

原神明社：毎年6月に「蛇も蚊も祭り」が行われる。境内の片隅の道標に書かれている岸弁才天は商人や花柳界に人気あり。

茶屋「桐谷」：薩摩藩士に切りつけられ瀕死となったリチャードソンの落馬絶命場所。

生麦事件碑：碑文は啓蒙思想家中村正直、彫刻は飯島吉六。リチャードソンの絶命場所を土地の有力者黒川荘三が買い取る。設置場所を変え高架下緑地に設置し、キリンビールが管理。

当初の7月4日の予定が豪雨予報が出た為、予備日7月12日に延期開催となりました。

（熊谷 滋子 記）



正泉寺
法話拝聴



生麦事件碑

独自コース 70 番 「^{こぶがはら}古峰ヶ原高原～前日光横根高原」1 日目（通算 151 回）

今回は、10 年前の秋に関東ふれあいの道として実施されたコースをつつじの見頃の時期に行こうとのことで計画されたコースです。初日は天狗の御朱印帳で有名な古峯神社を参拝し、休憩室で昼食をとりました。県道 58 号線を県道沿いのレンゲツツジを眺めながら歩き、古峰ヶ原高原への山道に入るとレンゲツツジが咲いていました。そして三枚岩への尾根道ではトウゴクミツバツツジ、アカヤシオが咲き始めていました。放牧時期前の前日光牧場沿いに、宿泊地の前日光ハイランドロッジを目指しました。夕食は黒毛和種という「かぬま和牛」のバーベキューでボリュームがありました。

実 施 日：2019 年 5 月 16 日(木) 天候：曇り（後半少し雨ぱらつく）

歩行距離など：歩行時間 約 4 時間 歩行距離 約 8.5 km 参 加 者：11 名(男性 7 名 女性 4 名)

コース所在地：栃木県鹿沼市

交 通：横浜 6:39 発⇒(上野東京ライン)⇒8:58 着宇都宮〈乗換〉9:30 発⇒(日光線)⇒9:44 着 JR 鹿沼駅(関東バス・リーバス古峰原線) JR 鹿沼駅 10:20 発→ 11:20 着 古峯神社バス停

コースと時間：古峯(ふるみね)神社参拝の後、社殿に上がり休憩の間に昼食を摂る。

古峯園入口まで散策し、古峯神社を 12:20 出発 → 県道 58 号(古峰原街道)と登山道の分岐 13:25 → 古峰ヶ原高原 14:28～14:35 → 三枚岩・金剛山奥の院 15:35～15:45 → 方塞山 16:00 → 前日光ハイランドロッジ 16:45 着 (宿泊)

ご存じでしょうか！ 古峯神社

今を去る 1300 余年の昔、隼人というお方が京都からこの地に移り、尊(御祭神・日本武尊)の御威徳を慕いつつ、京都よりこの古峯ヶ原の浄地に遷座(創祀)申しあげたのが始まりといわれています。

その後、古峯ヶ原は、日光を開かれた勝道上人という僧侶の修行の場となり、上人は古峯の大神の御神威によって、古峯ヶ原深山巴の宿において 3 ヶ年の修行の後、天応 2 年(西暦 782 年)日光の男体山に初めて登頂し大日光開山の偉業を成しとげられました。

この縁起にもとづき、日光全山 26 院 80 坊の僧坊達は、勝道上人の修行にあやかって、年々古峯ヶ原(古峯神社を中心)に登山、深山巴の宿で祈願を込め修行する慣わしとなり、その修行は明治維新に至るまで、千余年の永きに亘って行なわれました。古峯神社はこのような古峯大神のご利益の顕著を以って全国稀にみる霊地として、火伏信仰、天狗信仰などに代表する諸人の敬虔な信仰を集め、久しきにわたってその御神威を保って参りました。明治初年には太政官布告により、神仏分離が行なわれ、仏具一切を取り除き、純然たる古峯神社となり、現在にいたっております。神社内参籠室や廊下には所狭しと天狗の面、或いは、扁額・威儀物(火ばし、下駄、わらじ、天狗人形)が掲げられております。

5 月来る古峯神社神々し 一瞥



三枚岩(古峰ヶ原高原)



トウゴクミツバツツジのトンネル

独自コース 70 番 「^{こぶがはら}古峰ヶ原高原～前日光横根高原」 2 日目（通算 151 回）

2 日目は、横根山に登り、あと 1～2 週間で見頃になるヤマツツジのトンネルを下り井戸湿原に到着。井戸湿原は小尾瀬と云われ木道が整備されています。湿原にはアカヤシロが見頃で結構咲いていました(1～2 週間もするとレンゲツツジ、シロヤシロが見頃となるようです)。ちょっと足を延ばし五段の滝をみて、井戸湿原に戻り象の鼻展望台に向かいました。ここにもつつじが道沿いに結構咲いていました。象の鼻展望台からは、宿泊したロッジ、前日光牧場、その後ろには日光連山を眺めることが出来ました。象の鼻展望台からは、苔むした岩と橋の沢沿いの下り道で慎重に下りました。そのあと長い林道を下り山の神バス停に到着しました。

実施 日：2019 年 5 月 17 日(金) 天候：晴れ

歩行距離など：歩行時間 約 4 時間 歩行距離 約 9km 参加者：11 名(男性 7 名 女性 4 名)

コース所在地：栃木県鹿沼市

交通：(JR) 鹿沼駅 14:59 発⇒(日光線)⇒15:13 着宇都宮〈乗換〉15:34 発⇒(湘南新宿ライン)⇒17:53 着横浜駅

コースと時間：前日光ハイランドロッジ 8:25 発 → 横根山 8:40～8:45 → 井戸湿原 9:20 → 五段の滝(往復 9:25～9:50) → 仏岩 10:22 → 象の鼻展望台 10:25～10:40→(苔むした沢沿い、林間コース)→ 林道「山の神線」終点 11:40 → 山の神 13:00 着 (タクシー) 山の神 13:25 発 → 14:20 分着 JR 鹿沼駅 (一応解散)

ご存じでしょうか！ 横根山の岩海(よこねやまのがんかい)

鹿沼市北西部に分布する山々は、足尾山地と呼ばれ、古生代(5.7～2.45 億年前)から中生代(2.45～0.65 億年前)に形成された古い堆積岩を基盤岩とする山塊である。中生代の後半(1.44～0.65 億年前)から新生代初期(0.65～0.24 億年前)にかけて、足尾山地の古い堆積岩にマグマが貫入し、やがて冷えて花崗岩となった。この花崗岩を基盤岩とする横根山周辺では、直径数メートルにも及ぶ花崗岩をあちこちで見ることができます。このように巨石が重なって分布する景観は、岩海と呼ばれます。これらは、横根山の基盤となる花崗岩石が、地表に露出し、長年の風化や冷却の作用によって砕かれ、谷を埋め尽くすことによって生まれた景観であると言えます。

横根山の岩海は、氷河時代の地形変化を現代に残し、過去の気候変化を現代に伝える貴重な自然遺産であるとして、文化財に指定されました。岩海は古峯神社や発光路周辺など横根山全体で見ることができますが、井戸湿原の東側で、岩海のなかでも、その特徴がよく見られる範囲を限定して指定しています。

緑なす横根高原ハイキング 一瞥



横根山山頂



井戸湿原(小尾瀬)

独自コース 71 番 「花の入笠山」 (通算 152 回)

「花の宝庫」入笠山(ニューカサヤマ)は四季折々の花々や手つかずの自然を満喫できる自然の宝庫です。富士見パノラマリゾートの 8 人乗りゴンドラを使い入笠湿原や入笠山山頂へのお手軽トレッキングが楽しめる山です。ゴンドラを降り入笠湿原(100 万本の日本スズランが群生地)に、今年は花が遅れておりますが下の方は一部咲き始めていました。そして、入笠山頂にてハケ岳、秩父山系、南アルプスなどを眺めながらの昼食を食べました。山頂を後にし、入笠湿原を経由し入笠すすらん山野草公園で、「野生ランの王者」と云われる釜無ホテイアツモリソウ他ツバメオモト、オオアマドコロ、ヤマシャクヤク、シロバナエンレイソウなど多くの花が見られました。ハケ岳展望台からは、ハケ岳、秩父山系とわずかに富士山と甲斐駒が岳を見ることが出来ました。そして 20 万本のドイツスズランはほぼ満開で素晴らしいお花畑でした。

実 施 日：2019 年 6 月 5 日(水) **天候：**薄曇り

歩行距離など：歩行時間 約 3.5 時間 歩行距離 約 4.5 km 参 加 者：16 名(男性 12 名 女性 4 名)

コース所在地：長野県諏訪郡富士見町

交 通：往路：横浜⇒八王子発 8:02 (特急あずさ 3 号) ⇒9:42 着富士見 10:00 発 (シャトルバス) ⇒10:10 着ゴンドラ山麓駅 10:20 発 (ゴンドラ) ⇒10:35 着山頂駅
復路：ゴンドラ山頂駅 14:00 発 (ゴンドラ) ⇒14:15 着ゴンドラ山麓駅 15:00 発 (シャトルバス) ⇒15:10 着富士見発 15:29 (普通) ⇒16:17 着甲府 16:31 発 (特急あずさ 24 号) ⇒八王子 17:30 着

コースと時間：ゴンドラ山頂駅 10:45 発⇒入笠湿原⇒入笠山登山口 11:00 発⇒分岐 11:30 発
入笠山山頂 11:45 (昼食 12:20 まで) ⇒登山口 12:50⇒入笠湿原⇒入笠すすらん山野草公園⇒恋人の聖地 (オレンジタイム) ⇒13:55 ゴンドラ山頂駅

ご存じでしょうか！ JAXA 長野県入笠山光学観測施設(スペースデブリの観測技術の研究)

JAXA は、宇宙活動の安全を確保し、持続可能な宇宙開発を将来にわたって進めていくために、政府・内外の関係機関との連携強化を進めるとともに、スペースデブリに関する様々な研究開発に取り組んでいます。

軌道上の宇宙ゴミ(スペースデブリ、またはデブリ)は、年々増加の一途をたどっており、将来的には人類の宇宙活動の妨げになると予想されます。

JAXA は長野県入笠山光学観測施設に 60cm 望遠鏡を設置して、大型の軌道上物体を直接観測する技術の研究開発を実施しています。高速で移動する軌道上物体を、大気の揺らぎの影響を除去しながら精度よく追尾して、対象の形状および運動を精度よくとらえることを目的としています。また、対象が太陽光を反射する明るさの変化から運動を推定する技術の開発も行っています。軌道上の日照条件を模擬する装置を準備し、軌道上物体の模型を運動させることにより実際の明るさの変化をシミュレーションし、得られたデータから対象の運動を推定します。これら 2 つの研究を融合することにより除去対象となる大型軌道上物体の運動を推定する技術を開発します。

るんるんとすすらん愛でる入笠山 一祝



入笠山頂



釜無ホテイアツモリソウ

2019 年度第 2 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2019. 4. 22〉

巴里のアメリカ人



制 作：1951 年 米 上映時間：113 分
 原 作：アラン・ジェイ・ラーナ
 監 督：ヴィンセント・ミネリ
 音 楽：ジョージ・ガーシュイン（作曲） アイラ・ガーシュイン（作詞）
 衣 装：ワダ・エミ
 出演者：ジーン・ケリー（ジェリー） レスリー・キャロン（リズ）

【あらすじ】

ジェリー・モリガンはパリに住むアメリカ人。退役軍人であるジェリーは画家になることを目指し大戦終了後もパリに住んで、絵の勉強をしている。ジェリーの友人アダムにはアンリという知りあいの歌手がいる。アンリは今、リズという 19 歳の娘に恋をしている。リズは かつて親代わりに面倒を見た娘だ。ある日、ジェリーはモンマルトルの丘で絵を観た女性、ミロからパトロンとして援助したいという申し出を受け食事に行く。その店でジェリーはリズと出会い恋をする。ジェリーの強引な誘いを嫌がっていたリズであったが次第に心を開き始める。し

かし、ジェリーは何か引っかかるものを感じていた。ミロはジェリーのためにア トリエを用意し、3 ヶ月後に個展を開くように言う。リズのことが気になるジェリーはアダム にリズのことを話すが、そこにアンリが現われ、ジェリーの相手がリズであることを知らないアンリはジェリーに恋愛指南をする。互いに愛しながら、しがらみから抜け出せない二人。二人は果たして結ばれるのだろうか？
 花の都、芸術の都、憧れの都パリで繰り広げられるラブ・ストーリー。 MGM ミュージカルのシンボリック作品。

【解 説】

■ポイント

- MGM ミュージカルの代表作 ・製作＝アーサー・フリード、監督＝ヴィンセント・ミネリ、主演＝ジーン・ケリーは MGM ミュージカルの黄金トリオ ・MGM ミュージカルの集大成作品「ザッツ・エンターテインメント」でラストを飾った作品
- ジョージ・ガーシュウィン（1898 年～1937

年） ・アメリカの作曲家。ポピュラー音楽、クラシック音楽両方で活躍 ・代表作：「ボギーとベス」「ラプソディ・イン・ブルー」「巴里のアメリカ人」

- 受賞 アカデミー賞 7 部門受賞 作品賞、美術賞、撮影賞、衣装デザイン賞、作曲賞、脚本賞 名誉賞（ジーン・ケリー）

■見どころ

- ラストのケリーとキャロンのダンスシーン 長時間にわたるダンスシーン

- ガーシュウインの曲 一度聴いたら忘れられない特徴のある楽曲

2019 年度第 3 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2019. 5. 13〉

ノッティングヒルの恋人

制 作：1999 年 英 上映時間：123 分

監 督：ロジャー・ミッシェル

脚 本：リチャード・カーティス

音 楽：トレヴァー・ジョーンズ

撮 影：マイケル・コールター

出演者：ジュリア・ロバーツ（アナ・スコット） ヒュー・グラント（ウィリアム・タッカー）



【あらすじ】

ロンドン市西部、ノッティングヒル。ウィリアム・タッカーは当地で旅行専門書の書店を開いている。彼はバツイチの中年男であるが楽しい仲間と囲まれて愉快地暮らしていた。ある日、そこにハリウッドの大女優アナ・スコットがやって来る。アナは店を出た後、偶然タッカーに再会、別れ際にタッカーにキスをする。

その後、ロンドンにやって来たアナは宿泊しているホテルにタッカーを招待、タッカーはその晩に予定していた妹の誕生会にアナを招く。パーティで始めた不幸ゲーム。美人で大女優のアナにもあった不幸の数々。アナの昔の恋人とタッカーとの鉢合わせ。

タッカーの同居人によるマスコミ通報等が原因となり、ケンカ別れする二人。

やがて、オスカー女優になったアナは仕事で来たロンドンでタッカーに再会。翌日、タッカーの許を訪ねたアナはタッカーにある提案をするがタッカーは NO を告げる。仲間から意見され、間違いに気づいたタッカーは帰国するアナを追いかけるが・・・。

名作、「ローマの休日」を想わせる、ハリウッド女優としないバツイチ男の大人のラブ・ストーリー。コメディタッチで描く、「ロンドンの休日」

【解 説】

■ポイント

●主役二人の素敵なラブ・ストーリー

★ジュリア・ロバーツ（1967 年アメリカ、ジョージア州生まれ）

「プリティ・ウーマン」（1990 年）が出世作

「エリン・ブロコビッチ」（2000 年）でアカデミー主演女優賞受賞

★ヒュー・グラント（1960 年イギリス、ロンドン生まれ）

ロマンティック・コメディの主演が多く「ロマンティック・コメディの帝王」とよばれている。

★しゃれた会話、絶妙なタイミングで入る邪魔

■見どころ

●ラストのメディア会見シーン ほろっとさせる名セリフ。追いかける、She のメロディー

「ローマの休日」とは異なる結末

●不幸ゲーム 各自が自分の不幸な点を話し、最も不幸な人が勝利する

2019 年度第 4 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2019. 5. 27〉

麗しのサブリナ



制 作：1954 年 米 上映時間：113 分

監 督：ビリー・ワイルダー

撮 影：チャールズ・ラング・Jr

出演者：ハンフリー・ボガード（ライナス・ララビー） オードリー・ヘップバーン（サブリナ・フェアチャイルド） ウィリアム・ホールデン（デビッド・ララビー）

【あらすじ】

ニューヨークから 50 キロのロングアイランドにあるララビー家の豪邸。一家のお抱え運転手フェアチャイルドはイギリスから新型車と一人娘のサブリナを伴ってやってきた。ララビー一家は夫婦と長男ライナス、次男デビッドの 4 人家族。ライナスは父の後を継いで会社を経営、デビッドは名うてのプレーボーイ。サブリナはデビッドに片想いをしていたが、父は「身分不相応な恋はするな」と諭しサブリナをパリの料理学校に行かせる。2 年間のパリでの生活を終え、美しく洗練されて帰国するサブリナ。邸宅への道すがら偶然デビッド

ドに会うが見違える程美しくなったサブリナに気づかないデビッド。その晩開かれたホームパーティで一躍主役に躍り出たサブリナはデビッドのハートをガッチリ掴む。しかし、思いがけなくデビッドは怪我をしてしまう。デビッドの代わりに現れたライナスが今度はサブリナに恋をする。デビッドとライナスの間に揺れ動くサブリナの心。ライナスから渡されたパリ行きのチケット 2 枚。当主の息子 2 人とお抱え運転手の娘との恋の行方は？



【解 説】

■ポイント

- A・ヘップバーンの主演第 2 作 出世作となった「ローマの休日」に次ぐ注目の主演第 2 作 監督は巨匠ビリー・ワイルダー 共演は大物俳優ハンフリー・ボガードとウィリアム・ホールデン
- 美しく変身したサブリナを巡る兄弟二人（タイプ

の違う男性） 長男ライナス（H・ボガード）：父の後を継ぐ経営者。事業拡張に熱意。
堅実な考え方 次男デビッド（W・ホールデン）：定職を持たないプレーボーイ 夢に生きるタイプ

■見どころ

●サブリナファッション

- ・ファッションモデル体型のオードリーが華麗に着こなすファッション

- ・イーディス・ヘッドがデザインした衣装：サブリナパンツ
- ・ジバンシーのプレタポルテ（高級既製服）

2019 年度第 5 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2019. 6. 10〉

海よりもまだ深く

制 作：2016 年 日 上映時間：117 分

原作・脚本・監督：是枝裕和

撮 影：山崎 裕

出演者：阿部寛（篠田良多）、真木よう子（響子） 樹木希林（淑子）、吉澤太陽（真悟）
リリー・フランキー（山辺康一郎）

【あらすじ】

篠田良多は純文学の小説家。15 年前に一度文学賞を受賞したが、その後鳴かず飛ばずで、今や興信所の調査員をして生計を立てている。妻の響子からも愛想をつかされ離婚。食い詰めると実家に戻り年老いた未亡人の母淑子に金をせびるダメな中年男。

そんな良多であるが、月に一度一人息子の真悟と会うのが楽しみで、その日に響子に養育費 5 万円を渡している。ある時、真悟は淑子に会いたい

と言いだし二人は実家に行く。夕方には響子が迎えに来るが、あいにく台風が来て帰れなくなり、久々に家族 3 人が揃って過ごす夜になる。真夜中になり、良多は真悟を外に連れ出す。近くの公園の遊具の中で話す二人。そこに響子も現れて・・・。

淡々とした日常を描く是枝ワールド。監督自身の体験がちりばめられた思い入れの強い作品。



【解 説】

■ポイント

- 監督是枝裕和（1962 年東京生まれ）
 - ・早稲田大学第一文学部入学・テレビマンユニオンに入社：ドキュメンタリー番組の制作
 - ・「幻の光」：映画監督デビュー（1995 年）
 - ・「誰も知らない」：主演の柳楽優弥がカンヌ国際映画祭で主演男優賞を受賞（2004 年）
 - ・「海街 diary」：日本アカデミー作品賞、監督賞を受賞（2015 年）
 - ・「三度目の殺人」：日本アカデミー作品賞、監督

賞、脚本賞受賞（2017 年）

- ・「万引き家族」：カンヌ国際映画祭でパルムドール受賞（2018 年）日本アカデミー賞作品賞、監督賞、脚本賞受賞
- ・是枝作品の特徴：家族をテーマとしているところから小津安二郎と比較される。原作、脚本、監督、編集を自分で行っている
- ・本作のテーマ：「みんなが、なりたかった大人になれるわけじゃない」



■見どころ

- 是枝作品の妙味は会話の面白さ 本作では樹木希林に言わせる数々の名セリフ 特に、テレサ・テンの「別れの予感」をバックにした場面の会話

- この家族はこれから先どうなるのか？ 一度崩壊した家族を元に戻すには？

2019 年度第 6 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2019. 6. 24〉

黄金のアデーレ

制作：2015 年 英・米

上映時間：109 分

監督：サイモン・カーティス

音楽：マーティン・フィップス、ハンス・ジマー

出演者：ヘレン・ミレン（マリア・アルトマン） ライアン・レイノルズ（ランディ・シェーンベルグ）
ダニエル・ブリュール（フベルトウス・チェルニン）



【あらすじ】

1998 年、ロサンゼルスに住むマリア・アルトマンは知りあいのランディ・シェーンベルグ弁護士と共にある裁判を起こす。その裁判とは叔父のフェルディナントが叔母のアデーレをモデルにクリムトに描かせた肖像画をオーストリア政府から返還させるというものであった。

ウィーンに飛んだマリアとランディは現地の協力者チェルニンと三人で調査を開始、返還審問会に臨む。しかし、審問会の結論はクリムト作品をそのまま美術館に留置くというものであった。納得

のいかないまま帰国したランディはアメリカで裁判をすることを決意。折角、就職できた一流法律事務所を退職し、退路を断って裁判に臨む。裁判の戦術を巡り対立する二人であったが、ウィーンでの調停でオーストリアが過去に行った間違いを回復する機会であると主張するランディの意見がとおり、返還が認められる。勝ったマリアが最後に見せた涙のわけは？

「オーストリアのモナ・リザ」と称されたクリムトの名画の返還を巡る実話の映画化。

【解 説】



■ポイント

●グスタフ・クリムト（1862 年～1918 年）

- ・世紀末ウィーンの代表的画家
- ・日本文化の影響を受ける（1873 年：ウィーン万博に日本も出展）
- ・プロッホ＝パウアーは芸術家のパトロンで、無名当時のクリムトを援助していた

●「黄金のアデーレ」の数奇な運命（移転の状況）

- ・1907 年作、138cm×138cm
- ・移転：①アデーレ②ナチス・ドイツ ③フェルディナント・プロッホ＝パウアー ④オーストリア政府（ベルベデーレ美術館） ⑤マリア・アルトマン ⑥ロナルド・ローダー（NY、ノイエ・ガレリア）
- ・2006 年にローダーが落札した価格は 1 億 3500 万ドル（上記⑤から⑥、約 150 億円）

【参考】1987 年に安田火災（当時）が落札したゴッホの「ひまわり」は 53 億円。

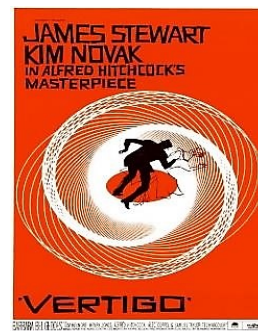
●ナチスの美術品略奪

- ・ヒトラーは首相就任の 1933 年から終戦の 1945 年まで主としてヨーロッパ諸国から 60 万点の美術品を略奪したといわれる。（現在でも 10 万点は行方不明）
- ・ヒトラーは青年時代に画家を志望しており、特にユダヤ人富裕層の所有していた美術品は略奪の対象とされた。
- ・特に、オールド・マスターの収集には力を入れ、逆にモダン・アートは退廃芸術とされ破壊されたものもあった。

2019 年度第 7 回 鑑賞会

〈鑑賞日：2019. 7. 8〉

め ま い



制 作：1958 年 米 上映時間：128 分

原 作：ボワロー＝ナルスジャック

監 督：アルフレッド・ヒッチコック

音 楽：バーナード・ハーマン

出演者：ジェームズ・スチュアート（ジョン・スコッティ・ファーガソン） キム・ノヴァク
（マデリン・エルスター／ジュディ・バートン） バーバラ・ベル・ゲデス（ミッシェル）

【あらすじ】

サンフランシスコ市警の刑事ジョン・スコッティ・ファーガソンは犯人追跡中に自分を助けようとした同僚を転落死させてしまったことから、高所恐怖症になり警察を辞めてしまう。ジョンは気の置けない女性ミッシェルから高所恐怖症を克服するためにはもう一度類似の体験をすることが必要だと聴く。

ある日、昔の友人ガビン・エルスターから妻マデリンの奇妙な理由による尾行を頼まれる。尾行をすると、マデリンがカルロッタという女性に関心を抱いていたことが判る。カルロッタはマデリンにとって曾祖母に当たる人物である。尾行中、ジョンはマデリンの自殺を目撃し助ける。それから

二人は愛し合うようになるが、マデリンはまたしても教会の塔から飛び降り、事件はマデリンの精神錯乱による自殺として処理される。

事件後もマデリンのことが忘れられないジョンは街で、マデリンに似た女性ジュディを見かける。ジョンはジュディにマデリンと同じ衣装を着させ、化粧を施す。ジョンはジュディがもっていたネックレスを身につけた時、ようやく事件の真相に気づいた。事件は、ジョンの高所恐怖症を利用し綿密に仕組まれた殺人事件であったのだ。

坂の街、サンフランシスコを舞台にしたサスペンス映画の傑作。ヒッチコックの代表作。

【解 説】

■ポイント

- ヒッチコックは金髪美人がお好き ヒッチコック作品の主演女優といえば金髪美人。イングリッド・バーグマン、グレース・ケリー、ティッピー・ヘドレン・・・。
- 本作でも、企画段階ではヴェラ・マイルズを起用予定であったが妊娠のため断念、やはり金髪美人のキム・ノヴァク主演となった。

- アルフレッド・ヒッチコック監督の代表作（AFI アメリカ映画ベスト 100・20007 年）4 作品が入選、9 位：めまい、14 位：サイコ、48 位：裏窓、55 位：北北西に進路を取れ、これだけの作品を残しながら、ヒッチコックは何故かオスカー監督になれなかった。

■見どころ

- オープニング・シーン 目のアップからくるくる回る螺旋と不安を掻きたてる単調な音楽冒頭から観客をヒッチコックの世界に引きずり

込む演出 これから起こる事件を暗示するスリリングな導入部

- キム・ノヴァクの一人二役化粧方法、髪の色、衣装をかえて一人二役を演じるキム・ノヴァク

「浮雲俳句会」

抄録 No.46

代表 北野 清市

129 回例会 平成 31 年 4 月 28 日

〔 秀作 〕

天賞

夜桜の飛天の舞や狂ほしき とも女

句のリズム・切れが抜群の秀吟。作者は長い間金沢区内の「舞踊会」に属して活躍中の重鎮である。＜夜桜＞のもと、空を飛ぶ天女の舞は、心が狂ってしまう程見事であると表示している。なお、掲句が平成最後の天賞である。

地賞

朧月絵筆手中に刻忘る 和 女

趣味に夢中になり時間の経つのも忘れている様がよく伝わってくる秀逸。「好きこそものの上手なれ」というが、一心不乱絵を描くことに溶け込んでいる様子が窺える。好きな絵画に熱中、時間の経過するのを忘れていたのだ。＜絵筆手中に＞＜朧月＞に魅入っているのだ。

人賞

咲き満ちて位置定まれり君子蘭 国 眼

作者の「鉢植え」の心意気が伝わってくる秀作。御本人は、＜君子蘭＞の鉢植えに凝り、初めて＜君子蘭＞の花の位置が定まったことを発見。＜咲き満ちた＞＜君子蘭＞に見惚れているのだ。

特選

朧月紅き唇夜会服 三 洋

本句は夜会デビューを前にした乙女の情景を表現しようとしたものであるが言葉足らずを否めない。情景表現は、シンガーソングライター「まふまふ」の「朧月」の一部を紹介しセルフコメントとしたい。
まふまふ/朧月(抜粋) 馴れ初めを知らぬ まま 薄紅点した宵時雨 (中略) 今宵は誰がために踊るの
でしょう 霞む私は朧月 (中略) あの人のもとへ帰ろう 遊里に咲く雪月花。

朧月ぬつと写楽の大首絵 三 旦

視界がはっきりしない状態での朧月夜の散歩中、なんとなく感じた思いを詠んだ句です。写楽の大首絵の特徴は、雲母摺を使った暗い背景に、デフォルメ化された人物像を浮かび上がらせる手法です。や

や生暖かくなってきた春の夜、まさに、一番有名な「三代目大谷鬼次の江戸兵衛」が眼に浮かんだのです。

平成の御代に幕引く朧月

一 馬

「春の雲平成最後の望隠す」これは4月19日（木）作の拙句です。当日は暦の上で「望」（満月）でしたが、雲が厚く遂に月を見ることは望めませんでした。その後下弦の月は細るだけ。一方当地では雲が毎晩厚く、平成の間、月の姿を見ることはできませんでした。春雲に閉じ込められたままの平成最後の日々、勿論それは偶々のことであり、また、それだけのことに過ぎなかったのでありましょう。

薄墨に瓦浮き立つ朧月

一 幸

兼題である「朧月」を取り込んだ句、非常に苦しみました。それは近年、朧月を見たことがないような気がし、また見てもいません。それでも何とかイメージを膨らませて作句したのが、掲句です。浮き立つ瓦は称名寺の本堂です。

コンサート余韻の一献朧月

勇 平

春の兆しを感じるころ、万物が霞んで見える。掲句の主役「月」は薄絹につつまれ、滴るような風情をみせる。こんな中、コンサート会場を後にして、その余韻を静かに浸りながら嗜むお酒はこの上ない喜び。小さくても確かな幸せである。

130 回例会 令和元年年 5 月 26 日

〔 秀作 〕

天賞

龍華寺の牡丹慈愛の傘させり

あきえ

作者の花に対する思いがよくつたわってくる秀吟。＜牡丹＞は、中国原産で花の王といわれ、昔から「立てば芍薬、座れば牡丹。歩く姿は百合の花」と崇められてきた。高さ約1米、葉は羽状複葉で初夏に大きな花をつける。白・紅・紫など種々の品種がある。しかし、白い牡丹が最高で「白牡丹といふといえども紅ほのか。虚子」は有名である。掲句は上記以外に、＜慈愛の傘させり＞と、心のかよった秀逸となっている。

地賞

白帆曳く地球の軋み夏の潮

和 女

“地球”は、勿論われわれが住んでいる天体。太陽系に属し、火星と金星の間に位置している。太陽から1億4950万km。365.24日で太陽系を一周。公転により四季を生じ、自転により昼夜を生じている。当句は、兼題の“地球”を見事にキャッチした秀作。掲句はヨットのような一つの＜白帆＞でなく、最近流行の多くの白帆を孕ませたクルーズ船であろう。このクルーズ船は、スピードが速いので、

すなわち潮の大きな「こすれ」が生まれているのである。これを、＜地球＞の「こすれ」と捉えたのである。

人賞

夏来る地球の半分北半球

一 幸

掲句もまた兼題の、＜地球＞を「地球儀」として捉えた佳句。地球を小型の模型にした地球儀のうえに把握。この地球儀には勿論北半球と南半球があり、＜地球の半分北半分＞と、地球を赤道で分けた場合の北半分にく夏来る＞と表記したものである。

特選

夏の富士頂きに見る地球かな

一 祝

富士山は過去 3 回登った。富士山麓を走る富士急行沿線の都留市出身ながら地元には登っていない。20 歳代後半に会社の同僚と登ったのが最初で、40 歳の時に長男と 70 歳の時に孫と都合 3 回登頂している。日本一高い富士山（3776m）山頂からの眺めは超雄大で、遠くは房総半島、伊豆半島、南アルプス、湘南海岸など将に雄大な地球の一角を見ている感があり、登頂の疲れも吹きとんでしまった。息子や孫は機会があればもう一度登りたい意向のようだが、9 月に傘寿になる当方は、なかなかその気になれないでいる。

早苗饗や白無垢の列祝い唄

春 駒

先月母が亡くなる少し前に、母の実家に所用で訪ねました。久しぶりの母の実家でしたが、田んぼだけは子供の頃見た風景そのまま、植えたばかりの苗がどこまでも風になびいて美しかったです。母の実家の地域は、昔嫁入り時に列をなして嫁ぎ先まで歩く風習がありました。昭和の 40 年頃までは馬だったりもしたそうですが、時代が進むにつれなくなりました。ちょうど田植えが終わり農家ではお餅をついたり赤飯を炊いたりして一息つきます。そんな折に復活したのか昔の風習の嫁入りに出くわした時の光景です。私自身も子供の頃に一度見た記憶があり、きれいなお嫁さんが列をなして嫁ぐ様は子供心には花嫁衣裳の美しさなどきらびやかな印象でしたが、今思うと貧しさや寂しさなど複雑な時代背景があったのかも知れません。

泥亀翁偲ぶ牡丹の古刹かな

重 九

須崎にある古刹・真言宗御室派の準別格本山である龍華寺には 15 余種、200 余株の大輪の見事な牡丹が次々と咲き誇り、牡丹まつりなども催され大いに楽しませてくれます。また、牡丹は「金沢区の花」でもあり、泥亀新田開拓者の永島氏、金沢区に貢献した大橋氏の牡丹園に由来するとされるが、偉大な先人を偲ばせてくれます。

釜利谷の麓の波に薫る風

一 馬

私の住まいは「富岡西」ですが、ここは当初「釜利谷字（あざ）瀧」と言いました。近くの公園の高台から眺めると、この辺り一帯すっかり家が立ち並び、昔の唱歌「麓の波と雲の波重なる波の中空を 橋かおる朝風に高く泳ぐや鯉のぼり」を思い出します。後になって振り返るとこの句は、何だかあの唱歌を 17 文字に縮めただけだったのかと反省させられます。しかし、眺めながら気が付いたのですが、当節鯉のぼりを余り見掛けません。矢張りそれだけ高齢化が進んで来たからでしょうか。快い五月の風

は今も昔も変わりませんが・・・。

クルーズ船風に膨らむアロハシャツ とも女

クルーズ船には、大小ありますが、特に豪華客船には、一度は乗ってみたい願望があります。近頃、観光会社でも、クルーズ船の旅の企画もかなり増えているようです。一方、小型のクルーズ船も、人気が高まっており、運転免許を取る若者も増えているようです。先日、伊豆の海で、クルーズ船を楽しんでいる若者に会いました。初夏の強い日差しが、真っ青な海に降り注ぎ、きらきら輝いていました。帆船の多い中に、音を響かせて、いきなり小型のクルーズ船が現れました。白いしぶきをあげながら、走らせている3人の若者でした。日焼けした若者は、派手なアロハシャツを風になびかせて爽快そうに見えました。一幅の動く絵を見るようでした。

《第21回金沢区民俳句大会への参加》

令和元年年6月2日（金沢地区センター）

第21回金沢区民俳句大会は、金沢地区センター会議室で令和に入って初めての大会として行われた。開始は午後1時30分。41人参加して全員が2句ずつ投句し、被講が実施された。続いて天・地・人賞及び特選の発表。表彰式と続いたのである。

天賞句 風薫る浄土の宇宙称名寺 和 女

地賞句 老鶯や源氏の将の眠る谷津 他会員

人賞句 能見台森万緑の道尾根づたひ 他会員

因みに、全句に占める「ご当地俳句」の率は、52.4%（全82句中ご当地俳句43句）。残りの「当季雑詠」39句、47.6%であった。



パソコンのOSがWindows10になって、以前のWindows VISTA、Windows 7、Windows 8. 1の時に比べてその動作が軽快になりました。

それでも画面の見栄えをよくするためにメモリーを多用すると動きが鈍くなります。積載メモリーが少ないパソコンでは、次の各項目の設定変更をすることでメモリーの使用量を減らし、動きを軽くすることができます。このことでフォントの綺麗さが犠牲になっているなどの不満があればもとに戻します。

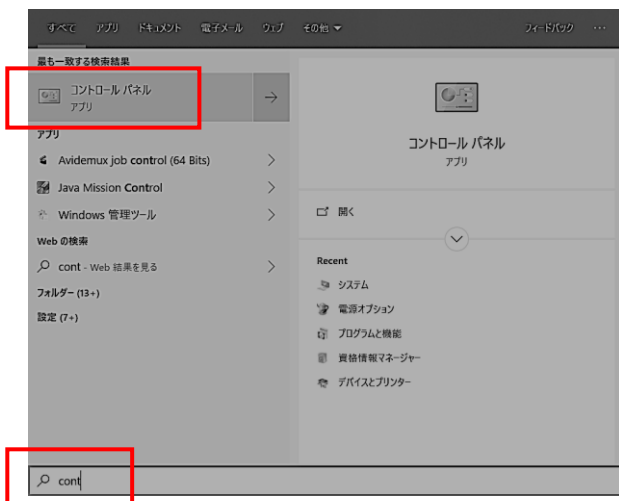
なお、今回はWindows10の最新バージョン「1903」をもとに記載しています。古いバージョンをお使いの方は少し異なる場合があります。

(1) パフォーマンス優先にする

アイコンやウィンドウなどの画面表示のデザインやアニメーション表示の有無などについて、好みの設定にすることができます。ウィンドウの下に影を表示して立体的な外観にする、フォントの縁を滑らかにし、画面上の文字をよりきれいに表示するなどの視覚効果を無効にしてパフォーマンスを優先にした場合には、画面表示のデザインが簡素になるため、パソコンの負荷が軽減され、動作を速くさせることができます。

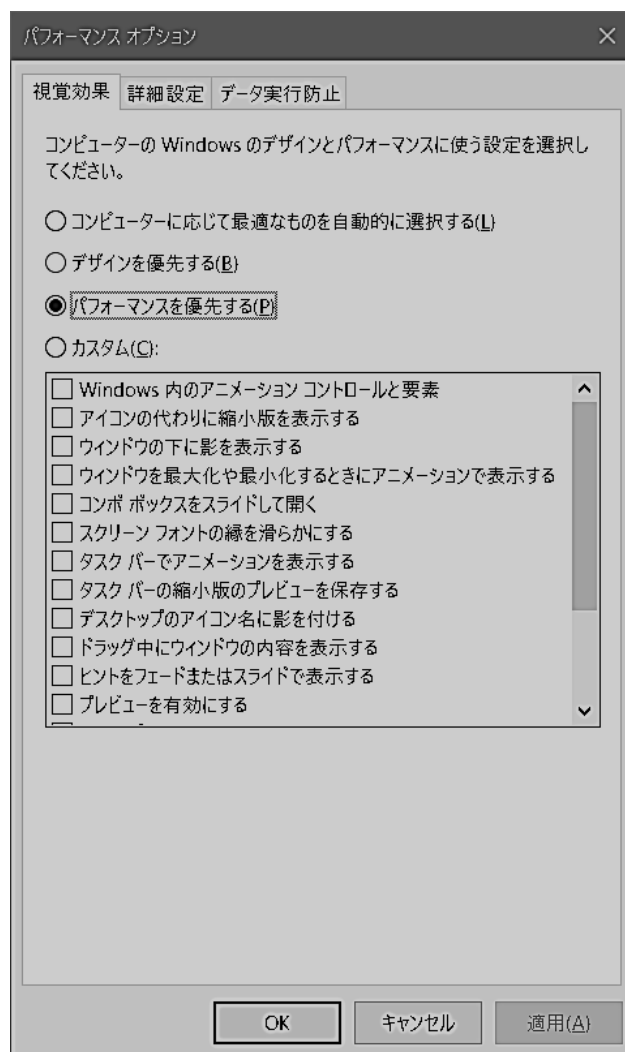
手順は次の通りです。

①. 「スタート」ボタンの右の「検索」窓に「Cont」



と入力する

- ②. 現れたメニューの「コントロールパネル」をクリック
- ③. 「コントロールパネル」が開くので右上の「表示方法」を「大きいアイコン」に変更する
- ④. 「システム」をクリック
- ⑤. 左側のメニューで「システムの詳細設定」を選択
- ⑥. 「詳細設定」タブを選択
- ⑦. 「パフォーマンス」の「設定ボタン」をクリック



- ⑧. 「視覚効果」タブをクリックして「パフォーマンスを優先する」を選択

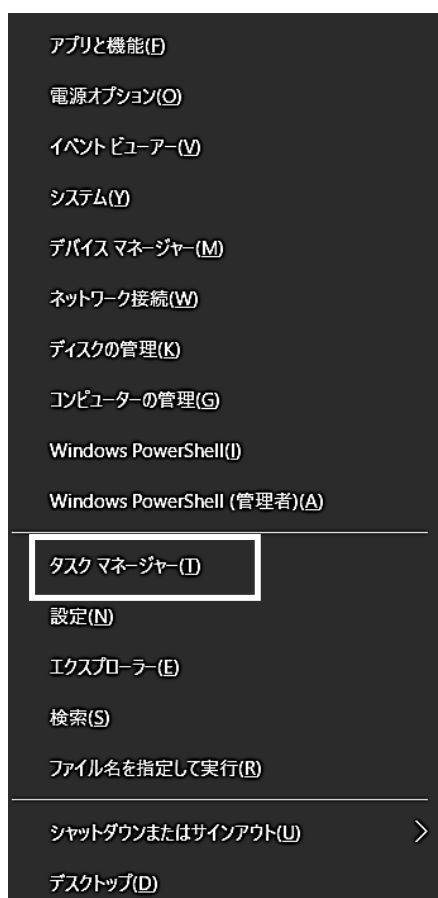
- ⑨. 残したい設定があれば、チェックボックスにチェックを入れる。私は、フォントの形状を改善するため、「ウィンドウの下に影を表示」と「スクリーンフォントの縁を滑らかにする」にチェックを付けています。
- ⑩. 「OK」をクリック
- ⑪. 「OK」をクリック

(2) 不要なスタートアップを無効化する

Windows 起動時に多くのアプリが動作すると、起動が重くなってしまう可能性があります。スタートアップに登録されているアプリは、コンピューター起動時に自動的に起動します。ウイルス対策ソフトなど最低必要なアプリ以外を無効化することで重い状態を解消します。

手順は次の通りです。

- ①. Windows キーと X キーと一緒に押す
- ②. 現れたメニューの「タスクマネージャー」をクリック（下図参照）



- ③. 「タスクマネージャー」の「スタートアップ」タブを選択（右上図参照）

- ④. 不要なスタートアップアプリを選択し、右下の「無効にする」ボタンをクリック。なお、下図の形にならないときは画面左下の「詳細」左の△をクリックする。

(3) アニメーション処理を無効化する



アニメーションとは、ウィンドウを最小化したり、最小化したウィンドウをタスクバーから表示する際にびよーンという動き付きで表示される効果のことです。スタートメニューの表示などにもアニメーションが使われています。

視覚オプションの「アニメーションを再生する」もオフにすると動作が軽くなります。

手順は次の通りです。

- ①. 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」をクリック
- ②. 「簡単操作」を選択
- ③. 左側のメニューで「ディスプレイ」を選択
- ④. 「Windows にアニメーションを表示する」をオフにする

(4) 電源プランを「高パフォーマンス」にする
パソコンの電源プランには、「省電力」、「バランス」、「高パフォーマンス」があります。

「省電力」は、消費電力を極力抑えます。バッテリーの消費を抑えるので、電源ケーブルを使わずにノートパソコンを外出先で長時間使うような場合に向いています。ただ、パソコンのパフォーマンス

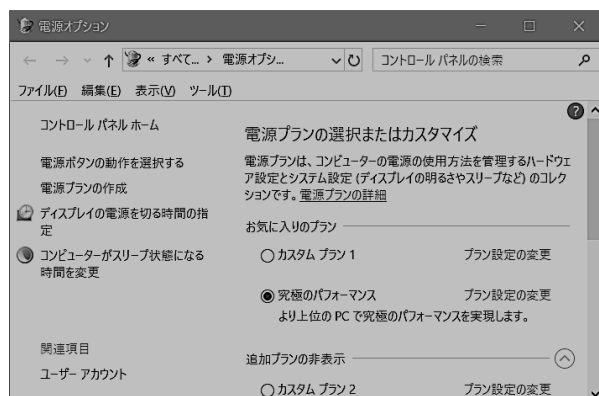
は抑えられてしまうので動作が遅くなります。

「高パフォーマンス」は、電力を多く消費しますが、パソコンの機能をフルに使います。多くのアプリを並行して使い、また処理能力が必要なアプリを使いたい時に選択します。デスクトップパソコンやノートパソコンに電源ケーブルをつないだ状態での使用に向いています。

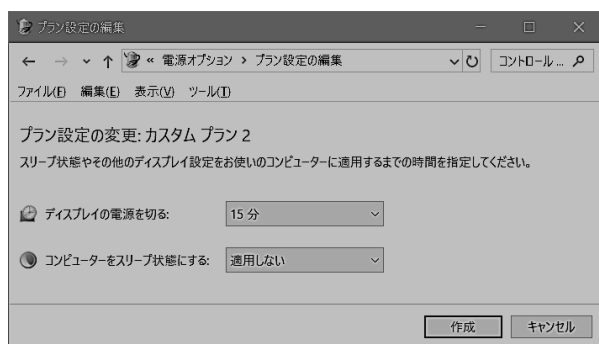
「バランス」は、省電力と高パフォーマンスの間です。高パフォーマンスにする必要が無く、消費電力を抑えたい場合に向いています。

パソコンに機能をフルに活用する「高パフォーマンス」にする手順は次の通りです。

- ①. 「コントロールパネル」を開く
- ②. メニューから、「電源オプション」をクリック
- ③. 左側のメニューで「電源プランの作成」を選択。
- ④. 「高パフォーマンス」を選択し、「次へ」をクリック



- ⑤. 「プラン設定の変更」で下図のように設定
ここで「コンピューターをスリープ状態にする」を「適用しない」にするのは、Windows の更新時にスリープ状態になると更新が完了しないので、この事態を避けるためです。



- ⑥. 「作成」をクリック

(5) Windows 10 の更新設定の変更

「配信の最適化」とは、ローカルネットワーク上にある他の Windows パソコン用のキャッシュサーバーの役割を果たすためにパソコンがダウンロードした「更新プログラム」や「ストア アプリ」を保持している機能とのことです。パソコンがサーバー代わりとなり、他のパソコンに更新データを送っているため、重くなってしまいます。

更新設定を変更する手順は次の通りです。

- ①. 「設定」から「更新とセキュリティ」を選択
- ②. 「配信の最適化」をクリック
- ③. 「他の PC からダウンロードを許可する」をオフにする



(6) Windows10 の透明化を無効にする

Windows10 の既定では、「スタート」ボタンをクリックして表示されるスタート画面が透明になり、デスクトップが透けるようになっています。

しかし、この設定も動作を遅くしています。無効にしましょう。その手順は次の通りです。

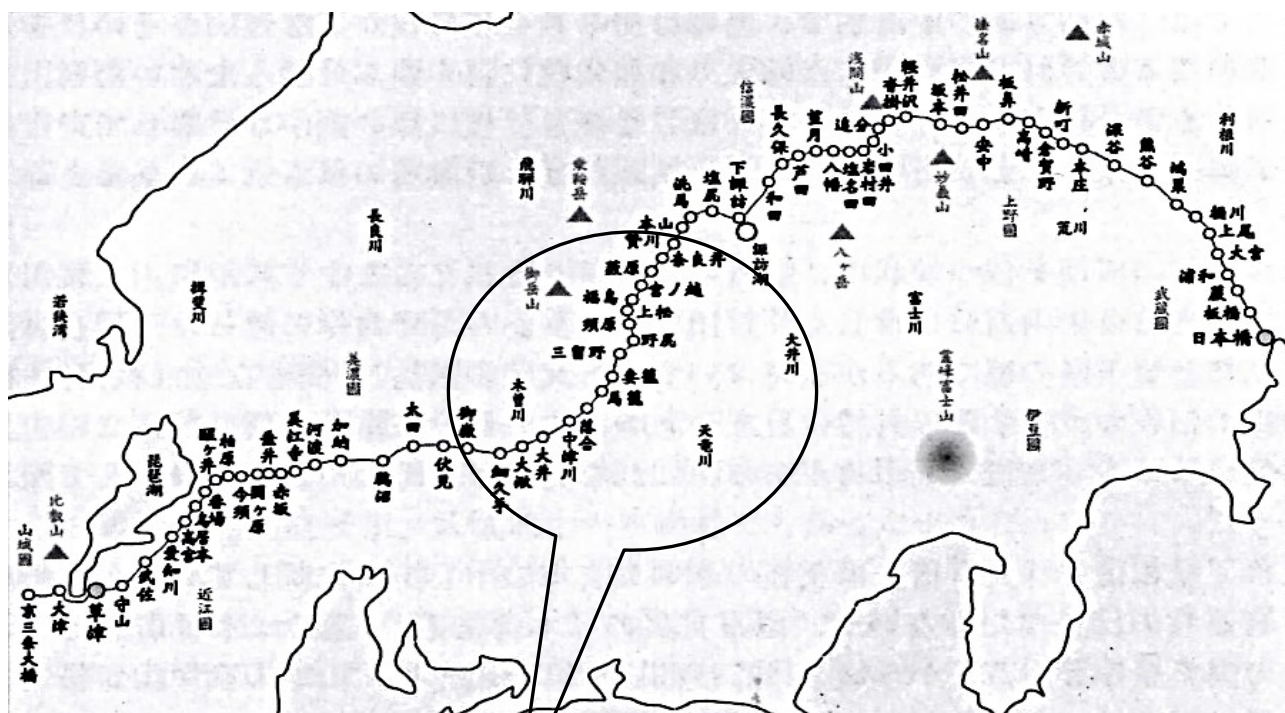
- ①. 「設定」で「個人用設定」を選択
- ②. 「色」の設定から、「透明効果」をオフにする

江戸時代の五街道を歩く(7)

古文書を読む会 代表 真田 雅行

中山道六十九次紀行

(3/4)



○—○: 今回対象範囲

7. 奈良井宿—藪原宿—宮ノ越宿—福島宿

道沿いの川は北の後方（日本海側）へと流れる奈良井川、遊歩道を更に進めば、中山道の難所「鳥居峠」を控えて宿泊客で賑わった「奈良井宿」に至る。

ここは国指定の「伝統的町並み保存地区」として建物全部が古建築を利用し、旅籠「伊勢屋」や明治の文人幸田露伴・泉鏡花・正岡子規などがよく利用した旅籠「徳利屋」など江戸時代の雰囲気が色濃く漂い、あちこちに飲み水場があって山中を感じさせる宿場だ。

明日の峠越えに備えて今日はここの旅籠で宿泊、やはり宿のおかみ及び偶然同宿した外人夫婦との団欒と夕食が楽しかった。

奈良井宿は見所も多かったので、翌朝再度地蔵が二百体もある八幡宮、杉並木、大宝寺のマリア地蔵その他史跡を巡った後、宿の南はずれからいよいよ鳥居峠の登りにかかる。

峠（海拔1,197m）までは2.5kmと距離はそうないのだが、つづら折の道は急且つ険しく山に分け入る感じで、昔は馬では越せず牛で越えたという。

途中菊池寛の『恩讐の彼方に』の舞台「中の茶屋跡」や戦国時代木曾氏と武田勝頼軍の古戦場跡「葬沢」を過ぎ、喘ぎながら山頂に来ると大きな「熊除けの鈴」が吊るしてあった。

そばに“熊も人間が怖いのです。この鐘で熊に知らせてやりましょう”

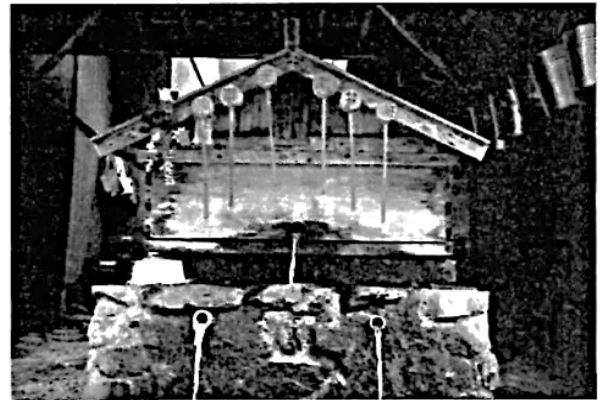
との立て札があり、思い切り紐を引っ張り鐘を鳴らした。熊に届いたのであるうか。幸い熊に出くわさなかった。

しばらく細い道を下ると小さな「丸山公園」に出た。当時の休息地・見晴地だったようで、夥しい石碑群に混じって芭蕉の句碑もある。更に下るともう一つ熊除けの鐘があったので勢いよく鳴らして急坂を下りきり、ようやく「藪原宿」に到着した。

木曾川は近くに源流があり、この辺りが分水嶺、木曾路はここから木曾川と共に南（太平洋側）に続く。藪原宿は名物の「お六櫛」とよばれる木櫛を生産し、櫛の大看



奈良井宿 伝統的町並み保存地区 電柱無し



奈良井宿 あちこちにある水飲み場



鳥居峠にて 熊除けの鐘

板がある旧家が資料館になっていた。また水が良いためか地酒「木曾路」の蔵元がある。

巴御前ゆかりの紅葉の名所「巴ヶ淵」に出た。伝説ではここに住む竜神が中原兼遠の娘の化身巴御前になったという。

次のひっそりと静まり返った「宮ノ越宿」は「木曾義仲」の故郷であり、平家追討の「旗挙げ八幡宮」、戦勝祈願の「南宮神社」、菩提寺の「徳音寺」等の史跡が多い。

徳音寺の近くに最近「義仲館」が完成、彼ゆかりの品が展示されていた。

義仲はこの豪族中原兼遠にここで養育され成長した。この養父兼遠の菩提寺が宿はずれの「林昌禅寺」で、境内の中腹に彼の墓所がある。

宮ノ越宿を抜ければやがて「中山道東西中間之地」標柱に至り、ようやく半分（265 km）来たことを実感した。

木曾駒ヶ岳や中央アルプスを左に見ながら進み、次の木曾福島^{かぶきもん}の巨大な冠木門をくぐると「福島宿」の関所跡、その隣が関所番を勤めた高瀬家の屋敷、藤村の姉・「夜明け前」の“お糸”の嫁ぎ先であった。

この宿は山と山が木曾川に迫った天然の要害で、絶好の検問地だった。

8. 福島宿—上松宿—須原宿—野尻宿—三留野宿—妻籠宿—馬籠宿（56km）

「福島宿」の代々の代官・山村氏の屋敷は、木曾川を挟んで関所の反対側にあり、復元公開されているが、山村氏は尾張藩管轄下の身分ながら、半ば独立していただけあって想像以上の威容だ。

代官屋敷側に武家屋敷、木曾川を挟んだ反対側に町人屋敷や関所があった。

ここから「上松宿」までは10km、中山道は中央本線のすぐ脇を歩いたり、道が途絶

えているために、旧中央本線のトンネルや民家の脇道を通り抜けたり、かと思うと木の香りが漂う森林の細道に出たり、往年は難所だったが今は舗装された木曾川縁^{かけはし}の棧を渡ったりして、なかなか変化に富んでいて飽きない。

その上これからのコースが「木曾路のハイライト」といわれているので、より期待が高まる。

小学校入口の島崎藤村文学碑を過ぎると、次の「須原宿」への途中に、木曾八景の奇岩の景勝地「寝覚の床」と「小野の滝」がある。前者は崖下であり、紅葉の



福島宿

木曾川の左側に町人屋敷、右側に武家屋敷があった

「臨川寺」境内からの眺めに往年の面影が残るが、後者は喧騒の国道19号線に面し、しかも滝の上を中央本線の線路が走り、滝に打たれる修行僧や滝壺から流れる小川に架かった土橋、という昔の中山道のイメージはない。

「須原宿」は近くに迫る山々からの雪解け水が豊かで、道沿いに檜を割りぬいた共同水槽「水舟」がいくつもある静かで美しい宿だ。水はそのまま飲めてうまく、これを利用した酒造りも行われており、我々は正岡子規の和歌を刻んだ須原宿石碑が立つ水舟前で休息した後、向いの元庄屋兼問屋で今は酒屋の脇本陣「西村家」で地酒を買ったが、唯一残っていた老舗の旅籠が時代の移り変わりで閉鎖されたため、木曾川対岸の民宿に泊った。

翌朝、宿はずれの木曾三大寺の一つで重文の「定勝寺」に立寄り、桃山時代そのままの山門・本堂・庫裏を鑑賞した後、しばらく行って、南の小山中腹にある京の清水寺舞台のような懸崖造りの御堂「岩屋馬頭観音」に参拝した。

画家英泉はこの手前にあった有名な「伊那川橋遠景」の反橋そりばしを画いているが、今は何の変哲もない橋になっていた。が、ここからの岩屋観音堂の遠景が美しかった。

「野尻宿」は「七曲がり宿」とも呼ばれ、江戸幕府が外敵を防ぐために道を七ヶ所も左右にくねくね曲げてつくらせた宿場町で、檜の産地として今もJR野尻駅構内の貯木場に高々と積み上げられていた。

さて往年の木曾路は難所の連続だったが、中でもこの野尻宿—^{みどの}三留野宿間の10kmが最大の難所だったといわれる。このため木曾川に迫る断崖絶壁に棚のように設けられた危険な棧かけはし(=懸橋)があちこちにあったが、現在は立派に開発舗装されて当時の険しい面影は全くななくなっていた。

我々は中山道を少しそれて、山奥の景勝地「柿其溪谷」に入り、柿其川の秋の溪谷美を愛でた後、近くの地面を掘ったら温泉が湧き出たという温泉民宿に泊った。

翌朝山中から再び木曾川に出、途中「読書」という面白い名のトンネルを抜けて「三留野宿」に入ったが、往年の栄えた面影は薄れている。和宮はここで宿泊した。

三留野のJR南木曾駅なぎそを過ぎると、木曾路は初めて木曾川と分れて山路に入る。ここからは「歴史の散歩道」としてよく整備保存されている。

よく整えられた石畳の緩い上り坂と「上久保の一里塚」を過ぎれば、いよいよ今回の旅のハイライト、島崎藤村の「妻籠宿」「馬籠宿」の匂いが漂いはじめ、妻籠城址を過ぎようやく妻籠宿に着くと、国の重要建築物保存地区に指定されただけあってよく復元保存され、「奈良井宿」や東海道の「関宿」同様、江戸時代後期の宿場の様子をよく伝えている。

ここは伊那路への追分、「光徳寺」の門前町として賑わったが、今日も本陣・脇本陣・旅籠その他見るべき所が多く、日中は観光客でごった返していた。

ここでは江戸時代の旅籠「松代屋」に泊った。

翌朝誰もいない宿を歩き、もう一度宿の良さを味わった。



馬籠宿にて

近くの本陣は、『夜明け前』の主人公“青山半蔵”の奥方“お民”（藤村の母）の実家である。

妻籠を出て馬籠への途中に重厚で大きな民家が並ぶ「大妻籠集落」を抜け、更に木曾五木の持ち出しを厳しく監視した尾張藩の「一石栃白木改番所跡」を通して、宮本武蔵の舞台となった「男滝」「女滝」を見て坂を登りきると「馬籠峠」に出た。

峠茶屋があり、長野県と岐阜県の県境の標識が目についた。

次の宿の馬籠が、最近岐阜県中津川市と合併したためここが県境となった。妻籠との間をこの馬籠峠が遮っているのでも馬籠住民は岐阜県入りを望んだようである。

峠を下れば木曾路最後の「馬籠宿」、島崎藤村はこの馬籠本陣に生まれ、故郷を出てついに馬籠へ戻らなかったが、木曾を忘れず木曾を書き続けた。

『夜明け前』の舞台となった馬籠宿の高台からの恵那山の英姿と秋の馬籠の風景はすばらしく、今も念頭から離れない。

『夜明け前』の一節：“お民、来て御覧。恵那山がよく見えるよ。妻籠はどうかねえ”。

半蔵もお民も我々が歩いてきたこの妻籠—馬籠間8kmを自分達の道のように往来した。

本陣跡に藤村記念館がある。馬籠は水が溝を勢いよく流れる坂の町である。

9. 馬籠宿—落合宿—中津川宿—大井宿—大湫宿（33km）

ゆるい坂道の馬籠宿の庄屋・本陣・問屋が島崎藤村の実家だ。

が、明治と大正の二度の大火で焼けて今は隠居所が残るだけ、跡に藤村記念館が建つ。

明治の“ご一新”（王政復古）で、期待された生活の糧・山林伐採の規制緩和が却って厳しくなり、その上逆に戸長（村長）を首にされ、発狂した青山半蔵（藤村の父島崎正樹）の苦悩を画いた『夜明け前』は、近代日本の矛盾を鋭く衝いた。

馬籠は藤村一色、よく整備された宿と街道筋の水流音が、過ぎし昔への感傷を一層高揚させる。

2kmほどで藤村筆の「是より北、木曾路」の石碑と芭蕉の句碑があり、ここで木曾路十一宿は終り、美濃路・信濃路境界石碑から美濃国に入る。

と間もなく「十曲峠」、中山道中最も美しいといわれる石畳の古道が、鬱蒼とした木立の林間に消えている。峠というほどの厳しい上り下りがない道を下っていくと、視界が開けて、美濃路に入ったことを実感しつつ、旅人が好んで買ったという効能の狐膏薬を売った「医王寺」を過ぎれば、馬籠から6kmの美濃路最初の「落合宿」である。

立派な門構えの本陣跡前の枡形（直角の曲がり道）を通り、左に恵那山を見ながら



木曾路の馬籠宿のはずれに立つ石碑
(藤村筆)

4km上り下りを繰り返して、芭蕉の“山路来て何やらゆかしすみれ草”石碑を経て、急な「茶屋坂」を下れば、久しぶりでJR 鉄道駅がある人口5万の都市「中津川宿」に入る。

数ヶ月後再びここ茶屋坂から旅が始まった。旧道は江戸時代の面影をよく残し、意外と情緒豊かだ。

特にこの宿は江戸時代以降、「平田篤胤」の神道的・復古主義の実践運動を信奉し、近隣の一大中心地となり、『夜明け前』の青山半蔵もよくここでの会合に参加していたし、幕末水戸の天狗党上洛の際には、一行を厚く遇し、更に幕末長州藩の「桂小五郎」がここにかくまわれて、藩主が江戸からの帰りにここで小五郎に説得され、長州藩がそれまでの公武合体から倒幕に方針を大転換して、これが幕府を倒すきっかけとなったいわゆる「中津川会議」の地である。

小五郎の隠れ家は旧道を左折したところにそのまま残り、又歴史資料館にはよく会合に参加していた青山半蔵のモデル・島崎正樹の名もみえる多くの古文書が展示されていた。

宿の枡形の近くには「右木曾路、左なごや」の石の道標があり、ちょうど角が清酒「恵那山」の酒蔵で、軒を見ると、江戸時代の卯建（建物の両側に卯の字形に張り出した古屋根付の袖壁）がいくつも残っている。

次の大井宿までは10km、途中古代の官道・東山道の坂本駅があったとされる「小手ノ木坂」を抜けると、やがて短いが急な登りの難所「甚平坂」にかかり、山頂近くの甚平坂公園展望台からは北の御嶽山や恵那山の絶景が臨まれ、安藤広重がここで画いたとされる降りしきる雪の中を黙々と坂を登ってくる旅人・馬子・馬を画いたレリーフ碑があって、当時の面影を伝えている。

「大井宿」は今の恵那市の中心街の半分を占め、次の十三峠を控えていたことと、尾張・伊勢への分岐点で往来が盛んなため、美濃十六宿中最も繁栄した。

宿内に6ヶ所も枡形が設けられたが、当時の面影をよく残し、西行葬送の寺とされる「長国寺」・西行竹林庵跡・西行硯池・西行坂・伝西行の墓など西行法師に因んだ遺跡も多い（終焉の地は河内の弘川寺と二説あり）。

宿はずれの西行坂からはいよいよ起伏の多い難所の「十三峠」にかかる。

江戸初期に中山道を開通する際、ここを軍事上の防禦ラインとするために、ここ大井宿から「大湫宿」・「細久手宿」・「御嶽宿」まで、33kmもの険しい峠道がつくられたが、明治以降の開発・近代化から取り残されたために、今では逆に我々旅人には最も中山道らしさの残る魅力的な街道となっている。

予想通り十三以上もの上り下りする峠越えで精魂も尽き果てたが、いたる所に残る石畳・道の両側に原型をとどめる一里塚と静寂の細道や田園風景に発奮して、ようやく次の大湫宿に着き、宿唯一の食べ物・五平餅で一息ついた。

ここから御嶽宿まで食堂・レストランなど何もない。

行事予定

2019年9月～11月の予定

注：表中の「 CC 」は、「地区センター」の略

	9月	10月	11月
学習会	9月14日(土) 金沢 CC 9:30～12:00 ・伊勢宗瑞に立ち向かった最大のライバル ・青山学院大学 講師 真鍋 淳哉 氏	10月11日(金) ・探訪：三浦道寸ゆかりの地めぐり ・集合場所：三崎口駅 ・集合時間：9:30	11月9日(土) 能見台 CC 9:30～12:00 ・軍記物語と鎌倉 ・鶴見大学 講師 平藤 幸 氏
寺社を巡る会	9月13日(金) 10:00 集 合：京急鶴見駅 テーマ：曹洞宗大本山總持寺を参拝 訪問先：成願寺、本山駅跡、總持寺、東福寺、花月園跡	10月3日(木) 10:00 集 合：小田急箱根板橋駅 テーマ：小田原城周辺の寺社を巡る 訪問先：居神神社、大久寺、大蓮寺、報徳二宮神社等	11月7日(木) 10:00 集 合：横浜線小机駅 テーマ：太田道灌が攻めた小机城址 訪問先：雲松院、白山稻荷社、聖徳太子堂、本法寺、金剛寺、小机城址
古文書を読む会	9月12日(木) 10時～12時 場 所：区民活動センター テーマ：磯子村中浜安室忠治家文書 9月26日(木) 10時～12時 場 所：区民活動センター テーマ：北撻聞略(大黒屋光太夫漂流記)	10月10日(木) 14時～16時 場 所：区民活動センター テーマ：磯子村中浜安室忠治家文書 10月24日(木) 10時～12時 場 所：未定 テーマ：北撻聞略(大黒屋光太夫漂流記)	11月14日(木) 10時～12時 場 所：未定 テーマ：磯子村中浜安室忠治家文書 11月28日(木) 10時～12時 場 所：未定 テーマ：北撻聞略(大黒屋光太夫漂流記)
ふれあいの道歩こう会	9月19日(木) 予備日 20日(金) 独自コース 73 番＝通算 154 回 天女山～美し森山そして清里へ 山梨県 北杜市	10月17日(木) 予備日 18日(金) 独自コース 74 番＝通算 155 回 西沢溪谷探勝コース 山梨県 山梨市	11月21日(木) 予備日 22日(金) 独自コース 75 番＝通算 156 回 乙女峠から丸岳、長尾峠、湖尻、桃源台 神奈川県 箱根町
懐かしの映画を観る会	9月9日(月) 金沢 CC 12:15～ コーラスライン 9月23日(月) 金沢 CC 12:15～ おとうと	10月14日(月) 金沢 CC 12:15～ 日の名残り 10月28日(月) 金沢 CC 12:15～ ハドソン川の奇跡	11月11日(月) 金沢 CC 12:15～ 二十四の瞳 11月25日(月) 金沢 CC 12:15～ ドリーム
浮雲俳句会	9月29日(日) 9:30～ 能見台 CC 第133回例会 テーマ 室戸岬	10月27日(日) 12:00 ののほな館 第20回金沢区民俳句大会(吟行)への参加	11月24日(日) 9:30～ 能見台 CC 第134回例会 テーマ 大間崎
パソコンを使いこなす会	9月10日(火) 金沢 CC Internet 講座 — Internet 検索 — 9月17日(火) 金沢 CC Internet 講座 — おくりん坊 — 9:30～12:00	10月8日(火) 金沢 CC Office 講座 — 差込印刷(住所録作成) — 10月15日(火) 金沢 CC Office 講座 — 差し込み印刷(宛名印刷) — 9:30～12:00	11月12日(火) 金沢 CC EXCEL 講座 — 表の作成 — 11月19日(火) 金沢 CC EXCEL 講座 — 表の印刷 — 9:30～12:00

連絡先:

- ・学習会 090-6176-4543(内田) ・古文書を読む会 784-4900(真田) ・浮雲俳句会 774-3878(北野)
- ・ふれあいの道歩こう会 787-3250(江口) ・懐かしの映画を観る会 701-1606(佐藤)
- ・寺社を巡る会 046-866-3339(吉田寿紀) ・パソコンを使いこなす会 701-9775(林)

編集後記

編集後記とは何かの問いは無視すべきものではないが、さりとてその問いに身を入れ過ぎると、問いの重さに引きずられて、却ってとはの本体から遠のいてしまう羽目にも陥り兼ねない事態となってしまう。とは何かとは、実は心地よい誘惑の言葉であることをしっかりと覚悟してから向き合わないと、易々とその罠に取り込まれてしまうものなのだとは重々承知している筈であるのに、その甘い罠につい手を伸ばしてしまうことも稀ではない自分がいるところで、さて編集後記とは何か。

(田中徳明 記)

発行日	2019年8月3日
発行月	年4回発行(2、5、8、11月)
発行者	金沢区生涯学習“わ”の会
編集長	山腰 策次郎
編集委員	相川 勲 田中 徳明 江口 正彦 佐藤 和広 渡邊 紀一 田野実 裕之 鶴岡 重典 林 元一